

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年6月27日
【事業年度】	第66期（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	日特建設株式会社
【英訳名】	NITTOC CONSTRUCTION CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中森 保
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座8丁目14番14号
【電話番号】	03(3542)9126番
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画室長 川口 利一
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座8丁目14番14号
【電話番号】	03(3542)9126番
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画室長 川口 利一
【縦覧に供する場所】	日特建設株式会社 札幌支店 （札幌市厚別区大谷地東4丁目2番20号（第二西村ビル）） 日特建設株式会社 名古屋支店 （名古屋市中区栄1丁目16番6号（名古屋三蔵ビル）） 日特建設株式会社 大阪支店 （大阪市中央区瓦町2丁目2番7号（山陽日生瓦町ビル）） 日特建設株式会社 九州支店 （福岡市博多区下川端町1番3号（明治通りビジネスセンター）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第62期 平成21年3月	第63期 平成22年3月	第64期 平成23年3月	第65期 平成24年3月	第66期 平成25年3月
(1) 連結経営指標等					
受注高 (百万円)	42,248	54,968	48,383	52,179	50,433
売上高 (百万円)	59,561	58,577	50,642	52,079	53,247
経常利益 (百万円)	1,359	1,500	1,509	1,877	2,249
当期純利益 (百万円)	1,454	1,444	2,318	1,823	3,552
包括利益 (百万円)	-	-	2,280	1,838	3,632
純資産額 (百万円)	6,817	8,269	10,403	12,044	15,029
総資産額 (百万円)	38,573	35,374	35,620	36,576	39,111
1株当たり純資産額 (円)	34.97	45.22	61.61	274.67	352.84
1株当たり当期純利益 (円)	10.24	10.19	16.67	43.45	82.78
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	8.29	8.23	13.22	-	-
自己資本比率 (%)	17.7	23.4	29.2	32.9	38.4
自己資本利益率 (%)	23.5	19.1	24.8	16.2	26.2
株価収益率 (倍)	3.6	4.9	12.2	11.5	4.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	243	3,784	3,566	723	4,933
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,786	10	32	202	206
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,685	2,538	1,191	936	1,756
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	5,933	7,170	9,578	9,163	12,132
従業員数 (名)	831 (235)	824 (227)	830 (240)	831 (242)	839 (247)

(注) 1 受注高及び売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第65期及び第66期は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数は就業人員であり臨時従業員は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

4 平成24年10月1日付で普通株式4株につき1株の割合で株式併合を行っております。第65期の期首に当該株式併合が行われたものと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を算出しております。

回次 決算年月	第62期 平成21年 3月	第63期 平成22年 3月	第64期 平成23年 3月	第65期 平成24年 3月	第66期 平成25年 3月
(2) 提出会社の経営指標等					
受注高 (百万円)	39,312	54,493	48,216	52,073	50,336
売上高 (百万円)	56,950	57,827	50,424	51,973	53,150
経常利益 (百万円)	1,190	1,395	1,478	1,942	2,199
当期純利益 (百万円)	1,336	1,382	2,288	1,923	3,503
資本金 (百万円)	6,052	6,052	6,052	6,052	6,052
発行済株式総数 (千株)	145,677	145,677	145,677	175,677	43,919
純資産額 (百万円)	6,835	8,224	10,328	12,069	15,002
総資産額 (百万円)	38,281	35,265	35,531	36,584	39,061
1株当たり純資産額 (円)	35.10	44.89	61.06	275.24	352.22
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	1.00 (-)	4.00 (-)	6.00 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	9.37	9.73	16.45	45.82	81.62
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	7.62	7.88	13.05	-	-
自己資本比率 (%)	17.9	23.3	29.1	33.0	38.4
自己資本利益率 (%)	21.4	16.8	22.2	17.2	25.8
株価収益率 (倍)	3.9	5.1	12.4	10.9	4.1
配当性向 (%)	-	-	6.1	8.7	7.3
従業員数 (名)	777 (227)	812 (221)	821 (238)	822 (241)	831 (245)

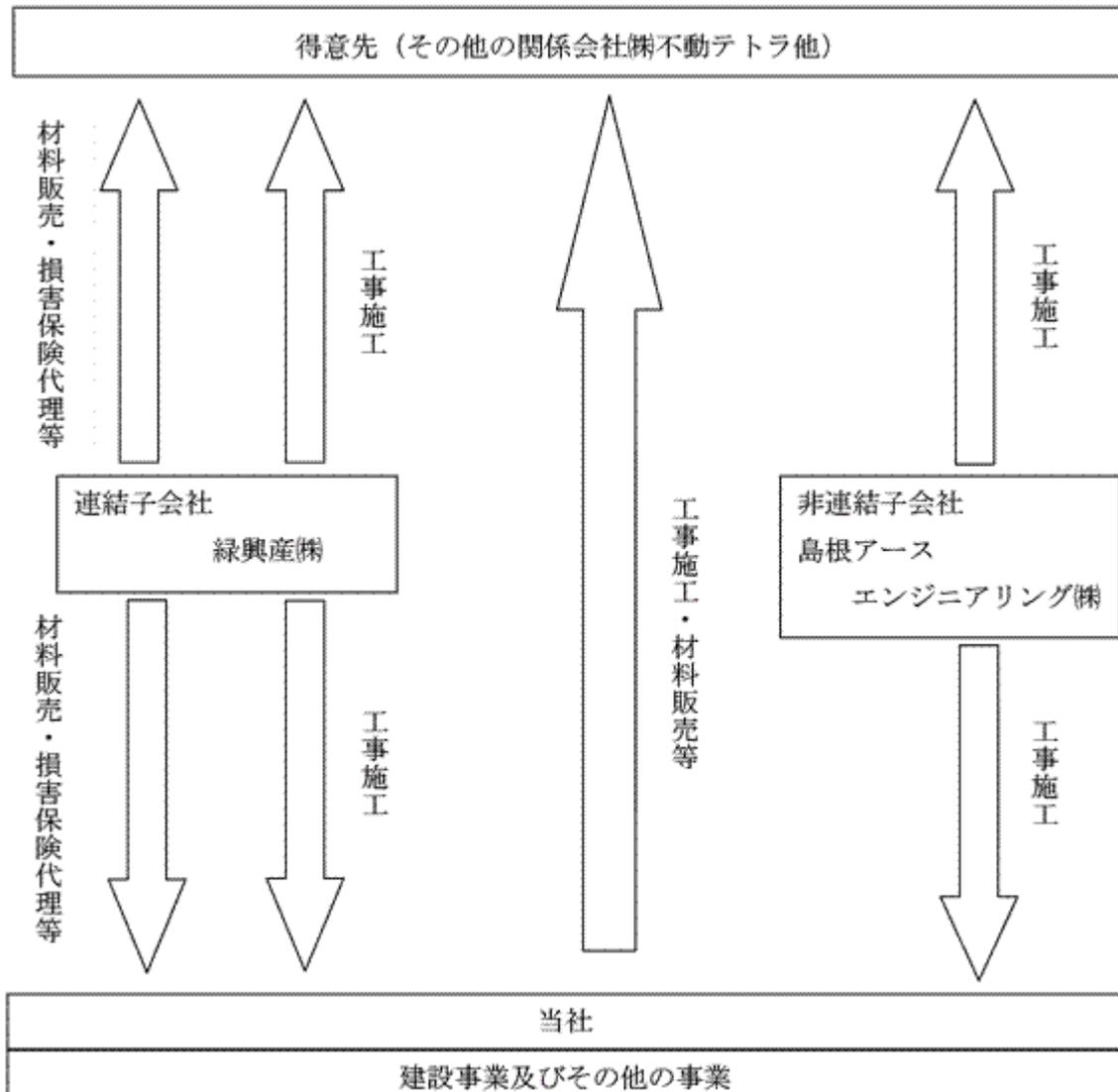
- (注) 1 受注高及び売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第65期及び第66期は潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
3 従業員数は就業人員であり臨時従業員は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
4 平成24年10月1日付で普通株式4株につき1株の割合で株式併合を行っております。第65期の期首に当該株式併合が行われたものと仮定し、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益を算出しております。

## 2【沿革】

- 昭和28年4月 地質調査、基礎工事を主たる目的として北海道札幌市に八千代地下工業株式会社を設立
- 昭和32年1月 本店を東京都港区に移転
- 昭和34年12月 商号を日本特殊土木工業株式会社に変更
- 昭和36年12月 本店を東京都千代田区に移転
- 昭和37年12月 株式額面金額変更のため、日本特殊土木工業株式会社（昭和22年12月設立の株式会社光商会の商号及び営業目的を変更）に吸収合併
- 昭和38年2月 建設コンサルタント部門を独立し、東京工務エンジニアリング株式会社（株式会社日本パブリック）を設立
- 昭和40年3月 本店を東京都中央区に移転
- 昭和47年5月 商号を日特建設株式会社に変更
- 昭和47年10月 建設大臣許可（特 - 47）第211号を受ける
- 昭和54年12月 緑興産株式会社を設立（現・連結子会社）
- 昭和58年10月 宅地建物取引業の許可、建設大臣免許(1)3193号取得
- 昭和58年12月 東京証券取引所市場第二部へ上場
- 昭和60年4月 日特不動産株式会社を設立
- 昭和60年9月 東京証券取引所市場第一部へ上場
- 昭和60年10月 株式会社日特リース情報センター（株式会社ハイテクリースに改称）を設立
- 平成2年5月 ドーム建設工業株式会社を設立（非連結子会社）
- 平成2年6月 明石町分室ビル完成
- 平成13年3月 日特不動産株式会社（連結子会社）を清算
- 平成15年11月 株式会社日本パブリック（連結子会社）を清算
- 平成16年10月 島根アースエンジニアリング株式会社を設立（現・非連結子会社）
- 平成21年3月 株式会社ハイテクリース（連結子会社）を清算
- 平成22年9月 ドーム建設工業株式会社（非連結子会社）を清算

### 3【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、子会社2社、その他の関係会社1社で構成され、主な事業内容は建設事業であります。  
当社は建設業を営んでおります。連結子会社緑興産株式会社は土木工事業と材料販売、損害保険等の代理店を営んでおり、当社は施工する工事の一部を発注するとともに、材料等の仕入れを行っております。非連結子会社島根アースエンジニアリング株式会社は土木工事業を営んでおり、当社は施工する工事の一部を同社に発注しております。  
事業の系統図は次のとおりであります。



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業の内容 (注)1	議決権の所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) 緑興産(株)	東京都中央区	31	建設事業 その他の事業	100	-	当社の損害保険を取扱い、 また当社へ工事施工及び建設材料の販売を行っております。 役員の兼任 1名
(その他の関係会社) (株)不動テトラ (注)2	東京都中央区	5,000	建設事業	-	23.66	業務提携契約を締結し連携関係を構築しております。

(注)1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報の名称を記載しております。  
2 その他の関係会社は、有価証券報告書を提出しております。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

(平成25年3月31日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
建設事業	833 (247)
その他の事業	6 (0)
合計	839 (247)

(注)1 従業員数は就業人員であります。  
2 従業員数欄の(外書)は臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

##### (2) 提出会社の状況

(平成25年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
831 (245)	43.7	18.8	6,346,779

セグメントの名称	従業員数(名)
建設事業	831 (245)
合計	831 (245)

(注)1 従業員は就業人員であります。  
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3 従業員数の(外書)は臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

##### (3) 労働組合の状況

当社グループには労働組合はありませんが、労使関係は円滑に推移しており特記すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要や新政権の政策による円安の進行など、景気回復基調を取り戻すことができましたが、実体経済は慎重な動きも見られることや、欧州債務危機の長期化などにより、依然として不透明な状況で推移しました。

建設業界におきましては、民間設備投資については、改善の兆しが見受けられるものの、企業の輸出や生産の減少により、伸び悩みが見られます。一方、公共建設投資については、他社との激しい受注競争が続く環境下にはありますが、復興事業の進展に伴い、堅調に推移しました。

このような事業環境において、当社グループは、中期経営計画Step（平成23年度～平成25年度）のもと、営業力強化と組織力強化を事業戦略の柱に据え、激変する建設市場でも確かな収益力を背景に安定した経営基盤を構築するとともに、インドネシア共和国に駐在員事務所を開設するなど、将来の成長戦略への転換に向けた準備を進めております。

その結果、当連結会計年度の業績は以下のとおりとなりました。

#### 受注高、売上高

当社グループは、中期経営計画の事業戦略である「基礎分野における補修・防災技術の強化によるシェア拡大」を推進してまいりました。具体的には基礎工事の独自工法の売り込み、災害復旧・復興工事の受注があったものの、エネルギー政策の見直しなどにより過去に受注した工事の数量減による減額処理を約20億円行った結果、受注高は50,433百万円（前連結会計年度比3.3%減）となりましたが、一方、売上高は53,247百万円（前連結会計年度比2.2%増）となりました。

#### 利益

当社が得意とする基礎工事の売上高が増加したこと、採算性を重視した受注をおこなったことにより、基礎工事の利益率が改善した結果、営業利益は2,438百万円（前連結会計年度比20.3%増）、経常利益は2,249百万円（前連結会計年度比19.8%増）となりました。当期純利益は、繰延税金資産約15億円を計上したため、3,552百万円（前連結会計年度比94.9%増）となりました。なお、繰延税金資産計上前の当期純利益は、1,979百万円となります。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度の連結キャッシュ・フローの状況は、営業活動により獲得した資金は4,933百万円（前連結会計年度は723百万円獲得）、投資活動により使用した資金は206百万円（前連結会計年度は202百万円使用）、財務活動により使用した資金は1,756百万円（前連結会計年度は936百万円使用）となった結果、現金及び現金同等物は2,969百万円増加し、当連結会計年度末残高は12,132百万円となっております。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、4,933百万円となっております。

これは主に、税金等調整前当期純利益2,279百万円、減価償却費175百万円を計上したことに加え、売上債権の減少2,489百万円、未払消費税等の増加325百万円により資金が増加する一方、未成工事支出金の増加344百万円等により資金が減少したことによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、206百万円となっております。

これは主に、有形固定資産の取得による資金の減少207百万円等があったことによるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,756百万円となっております。

これは主に、借入金の実行及び返済による資金の減少1,086百万円、配当金の支払いによる資金の減少172百万円及び自己株式取得による資金の減少472百万円等によるものであります。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 受注実績

セグメントの名称	前連結会計年度(百万円) (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度(百万円) (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
建設事業	52,075	50,324
その他の事業	103	108
合計	52,179	50,433

### (2) 販売実績

セグメントの名称	前連結会計年度(百万円) (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度(百万円) (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
建設事業	51,975	53,139
その他の事業	103	108
合計	52,079	53,247

- (注) 1 当連結企業集団では生産実績を定義することが困難であるため「生産の状況」は記載しておりません。  
2 セグメント間の取引については相殺消去しております。

なお、参考までに提出会社個別の事業の状況を記載すると次のとおりであります。

#### 建設業における受注工事高及び施工高の状況

##### 受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

期別	工事別	前期繰越 工事高 (百万円)	当期受注 工事高 (百万円)	計 (百万円)	当期完成 工事高 (百万円)	次期繰越工事高 (百万円)		当期施工 高 (百万円)	
						手持工 事高	うち施工高		
第65期 自23年4月1日 至24年3月31日	土木	27,772	52,073	79,845	51,973	27,871	4.2%	1,168	51,822
	計	27,772	52,073	79,845	51,973	27,871	4.2%	1,168	51,822
第66期 自24年4月1日 至25年3月31日	土木	27,871	50,336	78,208	53,150	25,057	6.3%	1,579	53,561
	計	27,871	50,336	78,208	53,150	25,057	6.3%	1,579	53,561

- (注) 1 前期以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額の増減がある場合は、当期受注工事高にその増減額を含んでおります。したがって、当期完成工事高にもかかる増減額が含まれております。  
2 次期繰越工事高の施工高は支出金により手持工事高の施工高を推定したものであります。  
3 当期施工高は(当期完成工事高+次期繰越工事高(うち施工高)-前期繰越工事高(うち施工高))に一致しております。

受注工事高の受注方法別比率

工事の受注方法は、特命と競争に大別されております。

期別	区分	特命 (%)	競争 (%)	計 (%)
第65期 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日	土木工事	77.7	22.3	100
第66期 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日	土木工事	79.8	20.2	100

(注) 百分比は請負金額比であります。

完成工事高

期別	区分	官公庁 (百万円)	民間 (百万円)	計 (百万円)
第65期 自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日	土木工事	44,345	7,627	51,973
	計	44,345	7,627	51,973
第66期 自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日	土木工事	45,295	7,854	53,150
	計	45,295	7,854	53,150

(注) 1 当社が総合建設業者を通じて受注した官公庁発注工事は官公庁欄に計上しております。

2 完成工事のうち主なものは、次のとおりであります。

第65期 請負金額 5 億円以上の主なもの

(注文者)

ケミカルグラウト(株)  
中日本高速道路(株)  
関東地方整備局  
北陸地方整備局  
(株)熊谷組

(工事名)

倉敷基地プロパン貯槽工事  
第二東名高速道路 岡部地区のり面補強工事  
辰巳(2)共同溝補強その5工事  
姫川水系葛葉山腹工法面工工事  
大山ダム建設工事に伴うグラウト工事

第66期 請負金額 5 億円以上の主なもの

(注文者)

中日本高速道路(株)  
ケミカルグラウト(株)  
横浜市  
(独)都市再生機構  
ケミカルグラウト(株)  
大成建設(株)

(工事名)

第二東名高速道路 鳳来工事  
東北地方整備局 胆沢ダム本体工事  
港北処理区新横浜駅前第二幹線下水道整備工事  
代田六丁目市街地住宅基盤整備工事  
関東地方整備局 湯西川ダム本体工事  
鹿島火力発電所スチームタービン発電施設増設工事

3 前事業年度及び当事業年度ともに完成工事高総額に対する割合が100分の10以上の相手先はありません。

手持工事高（平成25年3月31日現在）

区分	官公庁（百万円）	民間（百万円）	計（百万円）
土木工事	19,659	5,398	25,057

（注）1 当社が総合建設業者を通じて受注した官公庁発注工事は官公庁欄に計上しております。

2 手持工事のうち、請負金額5億円以上の主なもの

（注文者）	（工事名）	（完成予定）
西日本高速道路(株)	近畿自動車道八尾パーキングエリア構造物修繕工事	平成25年5月
(株)間組	東北地方整備局 津軽ダムグラウト工事	平成26年12月
(株)ミヤマ工業	東京電力(株) 八汐ダム調整池周辺グラウト工事	平成26年10月
(株)熊谷組	(仮称)スズキ湖西工場耐震工事	平成25年12月
飛鳥建設(株)	東京都 中央環状品川線南品川換気所避難路接続工事	平成25年6月
住友金属鉱山(株)	菱刈鉱山坑内抜湯設備建設に係るグラウト工事	平成30年3月
大阪府	主要地方道 泉佐野岩出線 道路築造工事 (葛畑23 - 2 工区)	平成25年7月
(株)ミヤマ工業	北海道電力(株) 京極発電所新設工事土木本工事 京極ダムブランケットグラウチング他工事	平成25年7月

### 3 【対処すべき課題】

今後のわが国経済は、いまだに収束が見られない欧州債務危機、中国などの新興国の成長鈍化への懸念などによる国内景気への影響が心配されていますが、新政権の政策による円安の進行や株価の上昇など、景気改善に明るい兆しが見られます。

建設業界におきましては、民間設備投資については伸び悩みが見られますが、円安による製造業の輸出環境の改善などから企業業績回復による増加が期待されます。一方、公共建設投資については、政府の国土強靱化策による全国の防災・減災対策や社会資本整備の更新、また東日本大震災の復興需要等により、堅調に推移するものと思われまます。しかし、受注競争の激化や発注量の地域格差の拡大、労務費、資材費等の高騰による業績への影響も懸念されています。

このような環境の中で当社グループが対処すべき重要課題は、中期経営計画〔Step 〕（平成23年度～平成25年度）では、内部統制（コンプライアンス、リスク管理）の強化、安全重視の経営、基礎工事分野の量の確保、収益性の維持、キャッシュ・フロー重視の経営と捉え、コア事業へ経営資源を集中し、グループ役員が一丸となって内部統制の強化、営業面・工事面・与信面の管理徹底等、さまざまな改革に取り組み、経営環境の急激な変化に対応できる体制を整えてまいりました。中期経営計画〔Step 〕の最終年度である平成25年度は、更なる成長戦略に向けた次期中期計画〔Step 〕の策定を予定しております。

また、収益性を維持していくために、貸倒、不採算工事、収支悪化工事の低減に努め、安全・品質の管理強化をより一層進めていくことや、無駄の排除による経費削減も重要課題と捉えております。

さらに、業務提携先である株式会社不動テトラとのシナジ - 効果を発揮し、重要課題の取り組み活動を推進してまいります。

#### 4【事業等のリスク】

以下において、当社の事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な項目を記載しておりますが、必ずしも事業上のリスクに該当しない項目についても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項については、情報開示の観点から積極的に開示しております。なお、当社はこれらのリスク発生の可能性を確認した上で、発生の抑制及び発生した場合の対応に努める方針であります。

##### 公共事業への依存

当社は受注高の8割以上を公共事業に依存しているため、予想を超える公共事業の削減が行われた場合には、業績に影響を与える可能性があります。

##### 他社との競合

当社の事業は受注産業であるため、他社との競合が激化することで採算が悪化し、業績に影響を与える可能性があります。

##### 取引先への与信

工事の受注から代金回収まで、相当な期間を要する場合がありますので、取引先の業況悪化等により工事代金の回収遅延や貸倒が発生し、業績に影響を与える可能性があります。

##### 瑕疵担保責任

品質管理には万全を期しておりますが、瑕疵担保責任及び製造物責任による損害賠償が発生した場合は、業績に影響を与える可能性があります。

##### 資産保有リスク

営業活動のため、有価証券等の資産を保有しているため、時価の変動により、業績に影響を与える可能性があります。

##### 金利の変動

社会情勢の急激な変化により予想を超える金利の上昇があった場合、業績に影響を与える可能性があります。

##### 法的規制

当社は建設業を主たる事業としており、建設業法をはじめとする法的規制を受けているため、法改正等により業績に影響を与える可能性があります。

##### 季節的要因

当社の主要事業は公共工事であり、施工のピークは第3四半期以降に集中する傾向があります。

その他、当社グループ会社につきましては、当社の内部統制システムに組み入れて、その業務が適正に遂行されるように監視・監督しておりますが、業況の変化により当社の業績に影響を与える可能性があります。

#### 5【経営上の重要な契約等】

特記事項はありません。

## 6【研究開発活動】

当社グループは、「環境、防災、維持管理、都市再生」に関する専門技術、工法を有し、「総合提案力のある専門工事」を得意とする建設会社として、「生態系と共生」を目指して、緑や生態系の回復、汚染された河川水の浄化、破壊された景観の回復、建設副産物・発生土の抑制やリサイクルなど、自然環境との調和を図りながら環境にやさしい環境保全型技術の開発・推進に積極的に取り組んでおります。研究開発は、これを活性化するためにも大学、その他公的機関、ならびに民間会社等との共同活動にも力を傾注しております。

当連結会計年度における当社グループが支出した研究開発費の総額は156百万円であり、全て建設事業セグメントに係るものです。

### (1) 環境・防災技術

#### ジオファイバー工法

コンクリートを使用しない法面保護工である「ジオファイバー工法」は、全面緑化が可能な環境配慮型法面保護工として陸域の法面から河川やダム護岸など幅広く適用されています。また、砂質系現地発生土などのリサイクル材料をはじめ、森林表土利用工や自然侵入促進工といった植生工の利用も可能なことから、斜面の安定だけでなく、周辺環境との調和、生物多様性や生態系保全への対応、循環型社会の形成、コスト縮減など、さまざまな機能をあわせ持つ工法として数多くの実績があります。当工法のさらなる品質向上やコスト競争力の強化を目指し、改良・改善のための継続的な研究開発を行っています。

#### 無機質系基盤材を使用した緑化工法

モルタル吹付法面や無土壌岩盤など、植物の生育しにくい法面における緑化工法として「無機質系基盤材を使用した緑化工法」を開発しています。無機質系の基盤材料を使用し、フレキシブルな形状に吹付ることで、有機質系基盤材に見られる生育基盤の分解・衰退や富栄養化水の流出による周辺環境への影響を軽減、さらに、フレキシブルな形状に吹付ることで植物の根の伸長領域を確保できることから永続的な緑化が可能となります。

### (2) 補修・補強技術

#### ニューレスプ工法

既設モルタル吹付法面をはつり取らずに補修・補強する「ニューレスプ工法」は、地山表層の補強を図る補強鉄筋工、既設モルタル吹付と新設モルタル吹付を一体化するせん断ボルト工、耐久性の高い法面を形成する繊維補強モルタル工を組合せた複合工法です。吹付法面の健全度診断システム「Slope Doctor」との組合せにより、最適な法面補修・補強対策を選定するといった、法面の延命化や維持管理コストの低減に関する技術の改良・改善も継続的にを行っています。

#### パフェグラウト工法

構造物や基礎地盤の空洞・空隙充填を行う「パフェグラウト工法」で使用する新たな充填材料を共同開発しました。材料には、火力発電所から大量に排出されるフライアッシュを有効利用し廃棄物の削減にも貢献します。当充填材料は、水中不分離性と可塑性を備え、長距離圧送が可能であるため、ダム魚道下部や導水路背面の空洞充填などに適用され、構造物の長寿命化を実現します。

#### キロ・フケール工法

1,000mを超える長距離圧送が可能な高強度モルタル吹付「キロ・フケール工法」について、施工性・安全性の向上、コスト競争力の強化を目的に、改良・改善を行いました。吹付材料は、流動すると粘性が低下し静置すると粘性が増加するチクソトロピー性を有することから、長距離圧送が可能であるとともに、吹付ノズルで急結剤を混合することにより急結性が高くなることから、さまざまな角度・形状の対象物への吹付けが可能です。このため、施工位置までの距離が長い導水路トンネルや山間部の橋脚の断面補修・増厚に適用が可能です。

#### グラウンドアンカー試験・緊張管理システム(Licos)

グラウンドアンカーの各種試験において任意に設定した载荷と除荷速度を自動で制御できるシステムです。リフトオフ試験時での利用から、新設アンカーの引抜き試験・多サイクル試験等にも対応可能に改良しました。平成24年5月に改定された「グラウンドアンカー設計施工基準・同指針」における新基準の各種試験についても容易に対応可能です。

#### 既設アンカー緊張力モニタリングシステム（Aki-Mos）

流供用中のアンカー健全度を継続的に評価するために、アンカー荷重計の取り付け・交換を容易に行うことができるシステムを共同開発しました。当社のグラウンドアンカー試験・緊張管理システム<Licos>と連動させることにより、既設アンカーの維持管理・健全性評価に欠かせない技術が確立できました。

### （３）都市再生技術

#### 軽量型親杭パネル壁工法

切土・掘削量が少なく景観性に優れた土留め式擁壁「軽量型親杭パネル壁工法」を開発しました。当工法は、急峻地形の道路拡幅や路肩決壊の復旧などにおいて適用されるH鋼にコンクリートパネルを差し込む薄肉の土留め擁壁「親杭パネル壁工法」を改良したもので、パネルの軽量化、パネルと親杭の連結方法の改良により、適用範囲の拡大、作業安全性の向上が可能となりました。

#### Ein Bandドリル

国内最大級のスペックを持つ「Ein Bandドリル」による削孔技術を確立しました。本技術は、従来機と比べて削孔能力は2倍以上、トルク力は約3倍あり、口径216mm、深さ100mを精度を保ちながら削孔することが可能です。大口径で大深度のグラウンドアンカー工事においては、アンカー本数が減らせるため工期短縮・コスト削減につながります。港湾やコンクリートダム・砂防ダムの耐震補強、地熱利用向け掘削などへの適用も可能です。

#### Win BLADE工法

既設構造物周辺や直下での地盤攪拌改良技術として「Win BLADE工法」を共同開発しました。拡翼型の攪拌装置を用いてセメントミルクと地山を機械的に攪拌することにより、品質のばらつきが少ない改良体を形成するとともに、地中への高圧流体の供給や圧入工程がないことから、地表面の変状を抑制することが可能な工法です。

#### MXグラウト

スラグ系懸濁型地盤注入材料として「MXグラウト」を開発しました。当材料は、超微粒子高炉スラグ微粉末を主材料とした高強度で浸透性・耐久性に優れた地盤注入材料で、注入対象土質や注入工法等に合わせて瞬結型と長結型の2配合があります。構造物基礎や盛土・堤防等の地盤強化、液状化防止目的の地盤強化、ダムやトンネルにおける土砂・岩盤の止水などに適用されます。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、連結会計年度末の資産・負債及び連結会計年度の収益・費用の数値に影響を与える見積り及び判断が行われております。これらの見積り及び判断については、継続した方法で、過去の実績や一般的に合理的と考えられる方法によっていますが、今後の状況等の変化により実際には異なる場合があります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

#### 売上高

当連結会計年度は、基礎工事の独自工法を売り込み、災害復旧・復興工事などを受注したことにより、53,247百万円(対前期比1,168百万円の増加)となりました。

#### 売上原価、販売費及び一般管理費

当連結会計年度の売上原価は、厳しい価格競争の中、原価率が86.4%(対前期比0.9%の改善)となりました。販売費及び一般管理費は、4,814百万円(対前期比236百万円の増加)となりました。

#### 営業利益

売上高の増加及び原価率の改善により営業利益は2,438百万円(対前期比411百万円の増加)となりました。

#### 営業外損益、特別損益

当連結会計年度の営業外収益は68百万円(対前期比4百万円の減少)となりました。営業外費用は金融費用の増加により258百万円(対前期比35百万円の増加)となりました。

特別利益は固定資産売却益の計上により32百万円(対前期比57百万円の減少)となりました。特別損失は固定資産除却損の計上により3百万円(対前期比39百万円の減少)となりました。

#### 当期純利益

上記の結果、当期純利益は、3,552百万円となりました。

過去5年間の売上高と原価率、販売費及び一般管理費と売上高販売費及び一般管理費比率の推移は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期
売上高	59,561	58,577	50,642	52,079	53,247
原価率	88.4%	88.1%	87.0%	87.3%	86.4%
販売費及び一般管理費	5,297	5,296	4,759	4,578	4,814
売上高販売費及び一般管理費比率	8.9%	9.0%	9.4%	8.8%	9.0%

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

### (4) 経営戦略の現状と見通し

中期経営計画に掲げる「基礎工事における総合技術力と効率的な経営で、安全・安心な国土造りに貢献する会社」を経営理念とし、経営ビジョンである「信頼される技術力に培われた、環境・防災工事を主力とした基礎工事のエキスパート」を追求するため、当社の「強み」を最大限に生かして、激変する建設市場でも確かな収益力を背景に安定した経営基盤を構築し、「再生」から「成長」への転換を図っていく所存であります。

平成23年5月20日付けで発表した「中期経営計画〔Step 〕(平成23年度～平成25年度)」の「計画の目的と位置付け」、「経営目標」、「事業戦略」は下記のとおりであります。

## 計画の目的と位置付け

当社の強みを最大限に活かして激変する建設市場でも確かな収益力を背景に安定した経営基盤を構築して「新生日特の創生」（再生）から成長戦略への転換を図ります。

### 経営目標

(イ) 営業面の目標（中期経営計画〔Step〕の最終年度である平成25年度の目標）

- ・法面工事トップ
- ・地盤改良 受注高10%増加

(ロ) 財務面

- ・自己資本比率35%以上

(ハ) その他

- ・営業利益率3.0%以上を維持
- ・配当の継続

### 事業戦略

(イ) 基礎分野における補修・防災技術の強化によるシェア拡大

- ・法面補修技術の確立とその市場開拓
- ・既存基礎構造物の耐震技術の強化
- ・生物多様性及び環境配慮型の緑化

(ロ) 営業領域の拡大

- ・民間分野の拡大
- ・海外への進出

(ハ) 体幹強化（垂直強化）による差別化の促進

- ・独自工法のスペックイン能力と直接施工能力の向上
- ・地元岩盤顧客の拡大と維持
- ・優良協力業者の育成及び優位性のある機械の保有

(ニ) リスク耐久力のある組織の構築

- ・コンプライアンス優先の経営
- ・管理部門の生産性向上
- ・組織内のモニタリング、内部牽制の強化

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金需要の主なものは、工事施工に伴う材料費、外注費等の支払であり、その資金は営業活動からのキャッシュ・フローにより調達しております。施工ボリュームは季節的な変動があり、一時的に営業キャッシュ・フローを上回る資金需要があった場合に備え、金融機関と借入枠2,000百万円のコミットメントライン契約を結んでおります。なお、平成25年3月31日現在における貸出コミットメント契約に係る借入未実行残高は2,000百万円、現金預金勘定残高は12,132百万円であり、通常の事業活動を継続するための資金調達は十分と考えております。

### キャッシュ・フローの状況

「第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要] (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

### 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における流動資産の残高は29,611百万円で、前連結会計年度末に比べ817百万円増加しております。これは、現金預金が2,969百万円、未成工事支出金が344百万円増加し、受取手形・完成工事未収入金等が2,489百万円減少したことが主な要因であります。固定資産の残高は9,499百万円で、前連結会計年度末に比べ1,717百万円増加しております。これは、繰延税金資産が1,583百万円増加したことが主な要因であります。

当連結会計年度末における流動負債の残高は18,058百万円で、前連結会計年度末に比べ549百万円増加しております。これは、その他流動負債の内、預り金、未払法人税等及び未払消費税等が662百万円増加し、短期借入金が200百万円減少したことが主な要因であります。固定負債の残高は6,023百万円で前連結会計年度末に比べ998百万円減少しております。これは、長期借入金886百万円減少したことが主な要因であります。

当連結会計年度末における純資産の残高は15,029百万円で、前連結会計年度末に比べ2,984百万円増加しております。これは、当期純利益3,552百万円を計上した一方、175百万円の配当を実施したこと及び472百万円の自己株式の取得をしたこと等によるものであります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

経営者の問題認識と今後の方針については、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 対処すべき課題」に記載のとおりであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中に実施しました設備投資の総額は202百万円であります。  
このうち主なものは工所用機械の購入であります。

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	帳簿価額(百万円)							従業員数 (人)
		建物及び 構築物	機械、運 搬具及び 工具器具 備品	土地		リース 資産	その他	合計	
				面積(m <sup>2</sup> )	金額				
本店 (東京都中央区)	建設事業	755	257	88,038 (5,249)	4,174	3	2	5,193	168
札幌支店 (札幌市厚別区)	建設事業	31	0	8,581	103	3	-	139	61
東北支店 (仙台市太白区)	建設事業	51	0	2,480 (3,925)	95	3	-	151	74
東京支店 (東京都中央区)	建設事業	66	3	1,942 (413)	38	3	-	112	175
北陸支店 (新潟市東区)	建設事業	84	0	3,206 (2,080)	173	3	-	262	66
名古屋支店 (名古屋市中区)	建設事業	30	0	3,582	224	3	-	258	67
大阪支店 (大阪市北区)	建設事業	62	1	8,367	371	3	-	438	96
広島支店 (広島市中区)	建設事業	58	0	510 (1,013)	141	3	-	205	54
九州支店 (福岡市博多区)	建設事業	2	3	9,065	79	3	-	89	70

(注) 1 土地及び建物の一部を連結会社以外から賃借しております。年間賃借料は213百万円であります。

賃借している土地の面積については( )内に外書で示しております。

2 上記の金額には消費税等は含んでおりません。

3 上記のほか、賃借している主要なリース設備には以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	台数	リース期間	設備の内容	年間リース料 (百万円)
本店 (東京都中央区)	建設事業	1台	平成19年10月 平成25年9月	Re. ボーン工法施工機本体	5

##### (2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)	摘要
			建物及び 構築物	機械運搬 具・工具 器具・備 品	土地		リース資産	合計		
					面積 (m <sup>2</sup> )	金額				
緑興産株	本店 (東京都中央区)	建設事業 その他の事業	0	0	-	-	-	0	8	

(注) 上記の金額には消費税等は含んでおりません。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設等  
該当事項はありません。
  
- (2) 重要な設備の除却等  
該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

(注)「発行可能株式総数」欄には、平成25年3月31日現在の当社定款に記載されている株式の総数を記載しております。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	43,919,291	43,919,291	東京証券取引所 (市場第一部)	株主としての権利内容に制限のない標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	43,919,291	43,919,291	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成22年6月29日 (注)1	-	乙種優先株式 10,000,000 普通株式 135,677,164	-	6,052	2,000	1,753
平成23年6月3日～ 平成23年6月9日 (注)2	普通株式 40,000,000	乙種優先株式 10,000,000 普通株式 175,677,164	-	6,052	-	1,753
平成23年6月21日 (注)3	乙種優先株式 10,000,000	乙種優先株式 - 普通株式 175,677,164	-	6,052	-	1,753
平成24年10月1日 (注)4	普通株式 131,757,873	普通株式 43,919,291	-	6,052	-	1,753

(注)1 資本準備金の減少は、欠損てん補によるものであります。

- 平成23年6月3日から平成23年6月9日までの間に、乙種優先株主の取得請求権の行使により、普通株式が40,000,000株増加したものであります。
- 平成23年6月21日開催の取締役会決議により、乙種優先株主の取得請求権の行使により取得した乙種優先株式(自己株式)をすべて消却いたしました。これにより、発行済株式総数は、普通株式175,677,164株となっております。
- 発行済株式総数の減少は、普通株式4株を1株とする株式併合によるものであります。

(6) 【所有者別状況】

普通株式

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株 式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	28	53	199	76	13	12,036	12,405	-
所有株式数 (単元)	-	84,182	26,081	111,109	21,346	166	192,979	435,863	332,991
所有株式数の 割合(%)	-	19.31	5.98	25.49	4.90	0.04	44.28	100.00	-

(注)1 自己株式1,325,430株は「個人その他」に13,254単元、「単元未満株式の状況」に30株含めて記載してあります。なお、自己株式1,325,430株は株主名簿記載上の株式数であり、期末日現在の実質的な所有株式数は1,325,180株であります。

- 上記「その他の法人」の中には証券保管振替機構名義の株式が5単元含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成25年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社不動テトラ	東京都中央区日本橋小網町7番2号	10,000	22.76
日本トラスティ・サ・ビス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	3,530	8.03
日本マスタ・トラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,489	3.39
日特建設株式会社	東京都中央区銀座8丁目14番14号	1,325	3.01
日特建設社員持株会	東京都中央区銀座8丁目14番14号	970	2.20
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	550	1.25
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	545	1.24
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	531	1.20
山内正義	千葉県浦安市	519	1.18
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号	500	1.13
計	-	19,961	45.45

(注) 前事業年度末では主要株主であったフェニックス・キャピタル・パートナーズ・シックス投資事業組合は、当事業年度末では、主要株主ではなくなっております。

( 8 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年 3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,325,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式(注)1 42,261,100	(注)1 422,611	-
単元未満株式	普通株式(注)2 333,091	-	-
発行済株式総数	43,919,291	-	-
総株主の議決権	-	422,611	-

(注)1「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権5個)含まれております。

2「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式80株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年 3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日特建設株式会社	東京都中央区銀座 8丁目14番14号	1,325,100	-	1,325,100	3.01
計	-	1,325,100	-	1,325,100	3.01

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が250株(議決権2個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に200株、単元未満株式に50株含まれております。

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得、会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得及び会社法155条第9号に該当する普通株式の取得

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

普通株式

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年7月2日)での決議状況 (取得期間 平成24年7月3日～平成24年8月31日)	5,000,000	500,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	5,000,000	470,677,000
残存決議株式総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	-

普通株式(株式併合により生じた端数株式の取得)

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成24年10月26日)での決議状況 (取得期間 平成24年10月29日)	489	買取単価に買取対象株式数を乗じた金額(注)
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	489	131,052
残存決議株式総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	-

(注) 買取単価は、買取日の株式会社東京証券取引所における当社普通株式の終値であります。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

普通株式

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	6,400	2,016,364
当期間における取得自己株式	585	220,090

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

普通株式

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (株式併合による減少)	3,959,499	-	-	-
(単元未満株式の売渡請求による売渡)	625	198,850	125	43,425
保有自己株式数	1,325,180	-	1,325,640	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成25年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分については、企業体質の強化や内部留保の充実による経営基盤の強化を図りながら株主への安定的な利益還元を努め、当期の業績や今後の経営環境などを勘案して決定することを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

内部留保資金については、経営基盤の強化並びに設備投資等に活用し、企業価値の向上に努めていく所存であります。

当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、会社法第454条第5項に定める中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成25年6月27日 定時株主総会決議	普通株式	255	6.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次 決算年月	第62期 平成21年3月	第63期 平成22年3月	第64期 平成23年3月	第65期 平成24年3月	第66期 平成25年3月
最高(円)	76	97	233	237	427 125
最低(円)	27	32	40	78	226 56

(注) 1 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

2 平成24年10月1日に普通株式4株を1株に併合したため、第66期の株価につきましては、当該株式併合後の最高・最低株価を記載し、に当該併合前の最高・最低株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年10月	11月	12月	平成25年1月	2月	3月
最高(円)	287	318	398	427	398	381
最低(円)	226	255	321	361	338	339

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		中森 保	昭和23年12月5日生	昭和47年4月 当社入社 平成3年4月 当社北陸支店営業部長 平成10年4月 当社長野支店長 平成12年4月 当社北陸支店長 平成14年6月 当社取締役北陸支店長 平成15年10月 当社取締役東京支店長 平成17年4月 当社取締役施工本部長 平成17年6月 当社常務取締役施工本部長 平成18年4月 当社常務取締役事業本部長 平成19年6月 当社代表取締役社長 (現任)	(注)3	14
取締役	専務執行役員 (技術本部長)	荒井 民雄	昭和23年8月26日生	昭和48年4月 当社入社 平成2年4月 当社北陸支店工事部長 平成9年4月 当社東北支店副支店長 平成11年4月 当社施工本部副本部長 平成13年3月 当社東北支店長 平成14年7月 当社執行役員東北支店長 平成15年6月 当社取締役東北支店長 平成17年4月 当社取締役東京支店長 平成19年11月 当社常務取締役東京支店長 平成21年4月 当社常務取締役事業本部長 平成21年6月 当社取締役専務執行役員 (現任)、事業本部長 平成23年4月 当社技術本部長(現任)	(注)3	5
取締役	専務執行役員 (事業本部長)	屋宮 康信	昭和33年9月24日生	昭和56年4月 当社入社 平成14年4月 当社大阪支店工事部長 平成18年4月 当社事業本部事業管理部長 平成19年4月 当社事業本部副本部長 平成19年7月 当社執行役員事業本部副本 部長 平成20年6月 当社取締役経営企画室担当 平成20年7月 当社取締役経営企画室担当 兼内部統制推進室担当 平成21年6月 当社取締役常務執行役員 経営企画室担当兼内部統制 推進室担当 平成23年4月 当社事業本部長(現任) 平成24年6月 当社取締役専務執行役員 (現任)	(注)3	18

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	常務執行役員 (直轄グラウト 部長)	三橋 一雄	昭和23年11月22日生	昭和47年4月 平成7年4月 平成15年7月 平成17年7月 平成18年6月 平成21年6月	当社入社 当社直轄グラウト工 事部長 当社執行役員直轄 グラウト工 事部長 当社上席執行役員 直轄グラ ウト部長 当社取締役直轄 グラウト部 長 当社取締役常務 執行役員 (現任)、直轄 グラウト部長 (現任)	(注)3	13
取締役	常務執行役員 (管理本部長)	迫田 朗	昭和32年1月6日生	昭和56年4月 平成11年12月 平成12年4月 平成17年7月 平成18年4月 平成21年4月 平成21年6月 平成24年4月 平成24年6月	当社入社 当社事務管理本部 企画室長 当社社長室長 当社執行役員管理 本部総務 部長 当社執行役員東 京支店副支 店長兼事務管理 部長 当社執行役員管理 本部副本 部長 当社常務執行役 員管理本部 副本部長 当社管理本部長 (現任) 当社取締役常務 執行役員 (現任)	(注)3	4
取締役		田畑 滋	昭和28年7月6日生	昭和49年4月 平成18年3月 平成19年4月 平成20年6月 平成21年5月 平成22年6月 平成23年4月 平成23年6月	不動建設株式会社 入社 同社ジオ・エン 지니어リン グ事業本部第 二事業部大阪 事業所長 株式会社不動 テトラ大阪 本店第三営業 部長 同社大阪本店 副本店長 同社建設本部 地盤事業部地 盤営業部長 同社建設本部 地盤事業部 営業部長 同社執行役員 地盤事業本 部副本部長 兼営業部長 (現任) 当社社外取締 役(現任) 重要な兼職の 状況 株式会社不動 テトラ 執行役員地盤 事業本部副 本部長兼営業 部長	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		水川 聡	昭和54年11月29日生	平成16年10月 平成23年7月 平成24年1月 平成25年6月	弁護士登録(第二東京弁護士会) 二重橋法律事務所 同事務所パートナー (現任) 当社社外取締役(現任)	(注)3	-
常勤監査役		淀谷 学	昭和23年2月11日生	昭和41年4月 平成2年4月 平成11年4月 平成13年4月 平成17年1月 平成17年7月 平成19年7月 平成22年5月 平成23年4月 平成23年6月 平成23年6月	当社入社 当社九州支店事務部長 当社九州支店次長 当社九州支店副支店長 当社九州支店長 当社執行役員九州支店長 当社執行役員監査部長 オリエンタル白石株式会社 執行役員監査部長 当社監査部部长 島根アースエンジニアリン グ株式会社監査役(現任) 当社監査役(現任) (重要な兼職の状況) 島根アースエンジニアリン グ監査役	(注)4	7
常勤監査役		作本 幸治	昭和28年8月19日生	昭和51年4月 昭和60年6月 平成2年4月 平成3年10月 平成4年4月 平成5年6月 平成8年5月 平成10年12月 平成13年4月 平成13年7月 平成15年7月 平成16年8月 平成16年12月 平成18年5月 平成20年3月 平成23年4月 平成24年9月 平成24年11月 平成25年6月	株式会社太陽神戸銀行入行 同香港支店 支店長代理 株式会社太陽神戸三井銀行 同赤坂支店 次長 株式会社さくら銀行 同東京営業第四部 主任調査役 同シカゴ支店 副支店長 同香港支店 副支店長 株式会社三井住友銀行 同 検査部・業務監査部 上席考査役 S M B C コンサルティング 株式会社 株式会社ツジデン 同中国現地法人総経理 神明電気株式会社 同 取締役 同 代表取締役社長 同 顧問 株式会社陽栄 顧問 当社社外監査役(現任)	(注)4	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		滝口 勝昭	昭和16年9月1日生	昭和38年11月	デロイト・ハスキンス・アンド・セルズ会計士事務所入所	(注)4	-
				昭和60年6月	監査法人三田会計事務所 名称変更代表社員		
				平成2年2月	事務所合併により監査法人 トーマツ代表社員		
				平成13年6月	同社エグゼクティブマネジ メントグループ		
				平成16年9月	デロイトトウシュートーマツ グローバルマニユファク チャーリングインダスト リーグループ会長		
				平成19年1月	滝口勝昭公認会計士事務所 開設所長(現任)		
				平成19年3月	日本リバイバル債権回収株 式会社常勤監査役(現任)		
				平成19年3月	フェニックス・キャピタル 株式会社非常勤監査役(現 任)		
				平成19年3月	産業ファンド投資法人監督 役員(現任)		
				平成20年6月	当社社外監査役(現任)		
				平成22年2月	財団法人石橋財団理事(現 任)		
				平成22年2月	オリエンタル白石株式会社 非常勤監査役(現任)		
				平成22年6月	日本橋梁株式会社非常勤監 査役(現任) (重要な兼職の状況) 滝口勝昭公認会計士事務所 所長 オリエンタル白石株式会社 非常勤監査役 日本橋梁株式会社 非常勤監査役		
計							63

- (注) 1 取締役、田畑 滋、水川 聡は、「社外取締役」であります。  
 2 常勤監査役作本幸治、監査役滝口勝昭は、「社外監査役」であります。  
 3 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結のときから平成26年3月期に係る定時株主総会終結のときまでであります。  
 4 常勤監査役淀谷 学、作本幸治、監査役滝口勝昭の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結のときから平成29年3月期に係る定時株主総会終結のときまでであります。  
 5 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株数 (千株)
真鍋 朝彦	昭和38年10月3日生	平成3年10月	太田昭和監査法人(現 新日本有限責任監査法人)入所	(注)2	-
		平成9年4月	公認会計士登録		
		平成19年5月	新日本有限責任監査法人 社員就任		
		平成22年7月	税理法人高野総合会計事務所 社員就任(現任)		

- (注) 1 真鍋朝彦は、社外監査役の要件を満たしております。  
 2 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期の満了するときまでであります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方)

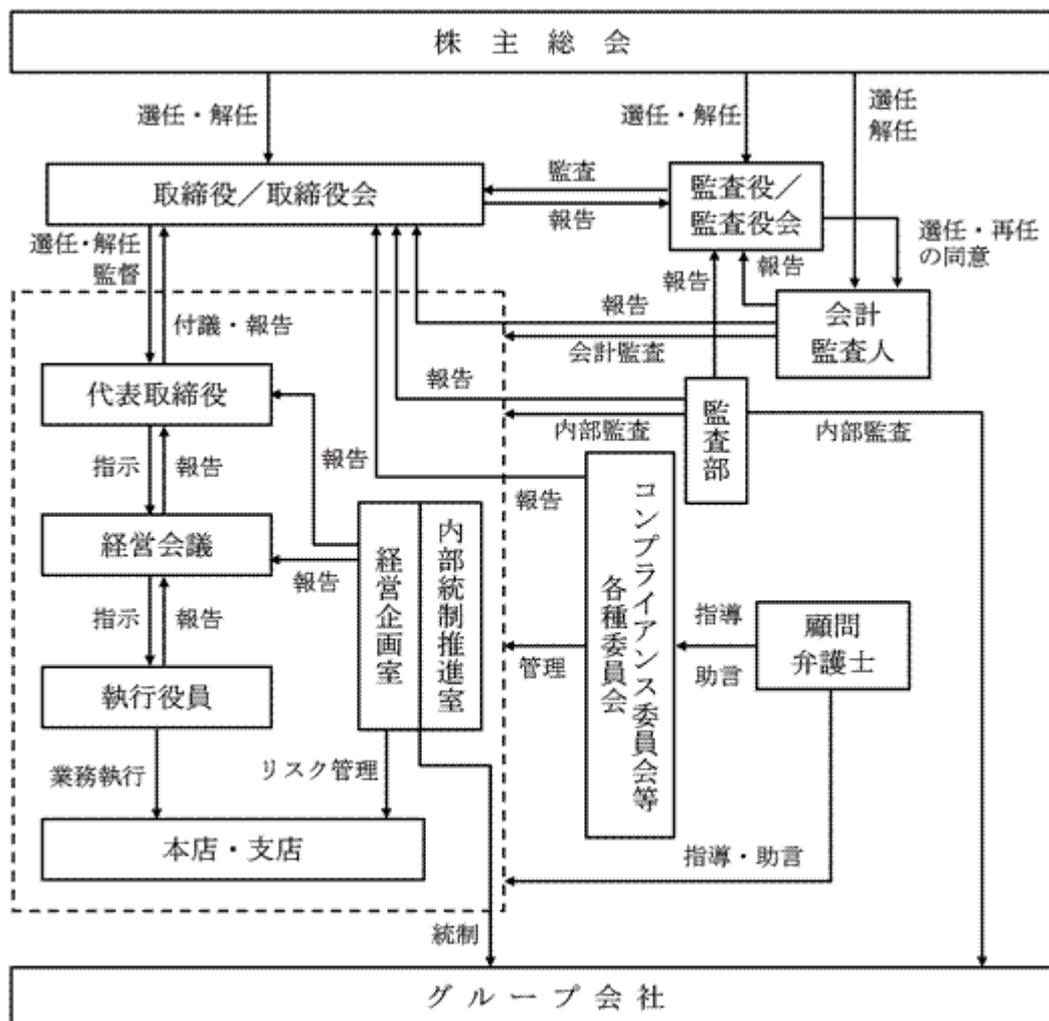
当社は、企業活動を支えるすべてのステークホルダーの利益を重視し、かつ各種法規範のみならず、社内規範や社会の良識・常識をも遵守した企業倫理の重要性を認識するとともに、企業の継続的な発展と、社会的信用の獲得、また、反社会集団に対する不当利益供与の根絶等、経営の透明性、健全性を高め、社会基盤の整備に貢献できる組織の構築をコーポレート・ガバナンスに関する基本的な方針としております。

#### 1. コーポレート・ガバナンス体制を採用する理由

当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づき、経営環境への迅速な対応、業務の意思決定・執行・監督について、リスク管理、コンプライアンスの徹底及び内部統制の向上を図るため、以下2の体制を採用しております。

#### 2. コーポレート・ガバナンスの体制の概要

・当社のコーポレート・ガバナンス体制



(イ) 当社は、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づき、建設業、コンプライアンス、経営に関する専門的な知識と経験を有する人材を配置し、変動の激しい業界における人脈の確保、情報収集と分析を通じて、業績の回復を図っております。当社の取締役は7名で、うち2名が会社法施行規則第2条第3項第5号に規定する社外役員に該当する社外取締役であり、監査役は3名で、うち2名が会社法施行規則第2条第3項第5号に規定する社外役員に該当する社外監査役であり、客観的な見地から経営監視の役割を担っております。当社の経営・業務執行の意思決定においては取締役会のほか、経営会議、業務執行者会議等を通じて、透明性、適法性などの監督機能を果たしております。また、取締役会の戦略性、機動性を高め意思決定のスピード化を図るため平成14年度より執行役員制度を導入し、経営監督機能と業務執行機能の分担を明確化させましたが、経営監督機能と業務執行責任の更なる明確化を図るため平成21年度より取締役会長、取締役社長以外の役付取締役を廃し、業務執行取締役については役付執行役員を兼務させることといたしました。取締役を兼務しない執行役員につきましても、役付執行役員を配し、役付執行役員については委任契約とすることで、その責任を明確化しております。

- (ロ) 代表取締役の諮問機関であり、取締役会を補佐する機関として月1回経営会議を開催しており、業務執行上の重要案件等の決定・報告が行われております。経営会議には取締役のほか必要に応じて役付執行役員が出席し、業務執行の適正性を評価しております。
- (ハ) 当社は、原則として取締役会を毎月1回、その他必要に応じて開催し、経営の基本方針、法定専決事項、その他経営にかかる重要事項等に関する討議・決定を行うとともに、業務の執行状況に関する監督、経営計画の進捗状況の確認等を行っております。
- (ニ) 経営会議、取締役会において、業務執行報告が正確に行われるため、月1回業務執行者会議を開催し、本店各部門長が業務執行取締役、役付執行役員に業務執行の詳細に関する報告を行っております。
- (ホ) 顧問弁護士については、複数の法律事務所と顧問契約を締結し、必要に応じて指導・助言等を受けております。
- (ヘ) その他社外に向けた経営情報の提供のために、ホームページの適時更新をはじめとするIR・広報活動を積極的にしております。

### 3. 内部統制システムの整備状況

当社は、平成18年5月15日開催の取締役会において「内部統制システムの基本方針」を決議し、経営企画室が内部統制構築に関する全般の取り組みを行っており、内部統制の整備、運用のモニタリングは監査部が行っております。また、財務報告が適正に行われるための体制を構築するため内部統制推進室を設置いたしました。財務報告に関するモニタリングは監査部が行っております。

「内部統制システムの基本方針」は、経営企画室が定期的に見直しを行い必要に応じて、取締役会決議を経て変更しております。また、平成20年4月25日開催の取締役会において「反社会的勢力排除」に関する決議を行い、平成22年4月26日開催の取締役会において、内部統制の一層の充実を図るため一部改定を決議しております。

### 4. リスク管理体制の整備

当社は、リスクの管理に関して、リスク管理規程に定め、部署毎に統制すべきリスクを明確化して、リスク管理プログラムにより統制活動を行うとともに、取締役会の下にリスク管理委員会を設置し、部署のリスク管理プログラムの進捗管理を行い、取締役会に報告しております。また、コンプライアンス経営によるリスク管理の強化を図るため、コンプライアンス委員会を設置し、「行動規範（コンプライアンス基本方針）」及び「コンプライアンスマニュアル」を定め、法令遵守はもとより企業倫理や環境問題等の社会責任に基づいた企業行動の徹底を図っております。

### 5. 内部監査および監査役監査の状況

(イ) 監査役は、取締役会、経営会議、コンプライアンス委員会等の重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査するとともに、議案審議等についての発言を適宜行っております。また、監査役の機能強化に係る取組みとして管理本部総務部及び経営企画室スタッフが、監査役に対して、取締役会、経営会議等、重要な会議資料を提供する等して緊密な連携を保ち、監査役の機能強化及び内部統制評価の機能強化を図っております。なお、当社の監査役は3名であり、そのうち2名が社外監査役であります。社外監査役のうち、作本幸治氏は大手金融機関において、要職を歴任しており、財務および会計に相当程度の知見を有しております。また、滝口勝昭氏は、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に相当程度の知見を有しております。

(ロ) 当社の内部監査は、他の業務部門より独立した組織である監査部所属の2名のスタッフにより、監査計画に基づく内部監査を実施しております。監査部は、監査役と連携を図りつつ、グループ各社を含む会社のコンプライアンス体制の整備、リスク管理の状況を監査いたします。

### 6. 会計監査の状況

会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく会計監査については監査法人保森会計事務所と監査契約を締結しております。同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。業務を執行した公認会計士の氏名及び監査業務に係わる補助者の構成は下記のとおりであります。

・業務を執行した公認会計士の氏名及び継続監査年数

三枝 哲

津倉 眞

継続監査年数については、両公認会計士とも7年以内のため記載しておりません。また、監査業務に係わる補助者の構成は、公認会計士5名であります。

### 7. 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携

監査役は、代表取締役、会計監査人、監査部との間でそれぞれ定期的に行われる意見交換会を通じて監査の計画や実行内容等の報告を受け、それらの適正性をチェックしあるいは、監査を求めるなどしております。

### 8. 内部監査、監査役監査及び会計監査と内部統制部門との関係

当社は、経営企画室が内部統制構築に関する全般の取り組みを、監査部が内部統制の整備、運用のモニタリングを行っております。また、財務報告が適正に行われるための体制を構築するため内部統制推進室を設置し、監査部において財務報告に関するモニタリングを行っております。そして監査部は、監査役、会計監査人と、経営企画室及び内部統制推進室を交えて定期的に意見交換をし、情報交換及び情報共有を図っております。

9. 役員報酬の内容

(イ) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	95	95	-	-	-	5
監査役 (社外監査役を除く)	15	15	-	-	-	1
社外役員	25	25	-	-	-	6

(注) 1 社外役員の報酬には、平成24年6月28日開催の第65期定時株主総会終結の時をもって退任した役員(取締役2名)を含めております。

2 当社役員のうち、報酬等の総額が1億円以上となる者はおりません。

(ロ) 役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する基本方針の内容及び決定方法

当社は役員報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりませんが、各役員報酬額は、地位、経歴、実績などを勘案して決定しております。

10. 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。(平成21年6月26日開催の当社第62期定時株主総会において承認可決されております。)

11. 取締役の選任の決議要件

当社は、株主総会における取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨定款に定めております。

12. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

13. 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

(イ) 当社は、経済情勢に対応した機動的な資本政策を行うため、会社法第165条第2項の規定により取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

(ロ) 当社は、株主に機動的な利益還元を可能とするため、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)をすることができる旨定款に定めております。

(ハ) 当社は、取締役(取締役であったものを含む)がその職務遂行にあたり、期待される役割を充分発揮できるよう、取締役会の決議によって、会社法第423条第1項の責任につき取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、免除することができる旨定款に定めております。

(ニ) 当社は、監査役(監査役であったものを含む)がその職務遂行にあたり、期待される役割を充分発揮できるよう、取締役会の決議によって、会社法第423条第1項の責任につき取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、免除することができる旨定款に定めております。

14. 社外取締役及び社外監査役

- (イ) 社外取締役(いずれも会社法施行規則第2条第3項第5号の社外役員に該当する。)は2名であります。社外取締役田畑滋氏は、株式会社不動テトラの執行役員地盤事業本部副本部長兼任営業部長で同社は、当社の主要株主であり、当社と業務提携契約を締結し連携関係を構築しておりますが、特別な利害関係はなく、また、同氏は、当社主要事業における経営に関する専門的知識・経験を有していることから、それらを当社の企業価値向上のために活かしていただけるものと判断し、選任しております。社外取締役水川聡氏は、当社と特別な利害関係はなく、弁護士として培われた企業法務に関する専門的な知識と経験を有していることから、それらを当社の企業価値向上のために活かしていただけるものと判断し、選任しております。
- (ロ) 社外監査役(いずれも会社法施行規則第2条第3項第5号の社外役員に該当する。)は2名であります。社外監査役作本幸治氏は、大手金融機関で要職を歴任しており、当社と特別な利害関係はなく、その幅広い見識を活かしていただくことで、独立した立場から、社外監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断し、選任しております。社外監査役滝口勝昭氏は、オリエンタル白石株式会社及び日本橋梁株式会社の監査役を兼任しており、両社は、当社と同業であります。特別な利害関係はなく、また、同氏は、公認会計士としての長年の経験と専門的な知識を有しており、その専門的な経験・知識を活かしていただくことで、社外監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断し、選任しております。
- (ハ) 各社外取締役および社外監査役は、取締役会、経営会議等の重要な会議に出席し、取締役の業務執行の状況の報告を求め、議案審議等についての発言を適宜行っております。
- (ニ) 社外取締役又は社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針については、特に定めておりませんが、豊富な知識、経験に基づき客観的な視点から当社の経営等に対し、適切な意見を述べていただける方を選任しております。

15. 責任限定契約

- (イ) 当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、法令が定める額を限度として責任を限定する旨の契約を締結しております。
- (ロ) 当社と監査法人保森会計事務所は、会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がないときは、法令が定める額を限度として責任を限定する旨の契約を締結しております。

16. 株式の保有状況

- (イ) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
10銘柄 543百万円
- (ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的  
前事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東京海上ホールディングス(株)	40,000	90	株式の安定化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	31,181	84	"
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	206,300	84	"
中央三井トラスト・ホールディングス(株)	254,000	67	"
前田建設工業(株)	47,192	17	企業間取引の強化
(株)間組	100,000	24	"
大成建設(株)	2,139	0	"
京浜急行電鉄(株)	1,070	0	"

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
東京海上ホールディングス(株)	40,000	106	株式の安定化
(株)三井住友フィナンシャルグループ	31,181	117	"
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	206,300	115	"
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	254,000	112	"
前田建設工業(株)	47,192	17	企業間取引の強化
(株)間組	100,000	21	"
大成建設(株)	2,184	0	"
京浜急行電鉄(株)	1,392	1	"

(注) 特定投資株式の前田建設工業(株)以下に記載のものは、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、全銘柄について記載しております。

(八) 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	38	-	38	-
連結子会社	-	-	-	-
計	38	-	38	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の事業規模の観点から合理的監査日数を勘案し、監査公認会計士等に対する監査報酬額を決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）第2条の規定に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）により作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の連結財務諸表及び第66期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の財務諸表について、監査法人保森会計事務所により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するために、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同機構のホームページ及び機関紙による情報収集や同機構主催のセミナー等に参加することにより、会計基準の内容を適切に把握し、適正な連結財務諸表等を作成できる体制の整備を行っております。

1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	9,163	12,132
受取手形・完成工事未収入金等	1 17,174	1 14,684
商品及び製品	9	25
販売用不動産	0	0
未成工事支出金	2 1,228	2 1,573
材料貯蔵品	189	142
繰延税金資産	845	837
その他	230	231
貸倒引当金	46	16
流動資産合計	28,794	29,611
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	3 1,131	3 1,074
機械、運搬具及び工具器具備品（純額）	4 177	4 268
土地	5 5,340	5,340
リース資産（純額）	6 12	6 33
建設仮勘定	0	0
その他（純額）	7 2	7 2
有形固定資産合計	6,664	6,720
無形固定資産	204	206
投資その他の資産		
投資有価証券	8 440	8 566
繰延税金資産	-	1,583
その他	608	582
貸倒引当金	135	159
投資その他の資産合計	913	2,572
固定資産合計	7,781	9,499
資産合計	36,576	39,111

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	9 13,152	9 13,232
短期借入金	10 600	400
未成工事受入金	2,183	2,206
リース債務	22	22
完成工事補償引当金	32	25
工事損失引当金	11 57	11 32
賞与引当金	367	414
その他	12 1,094	12 1,726
流動負債合計	17,509	18,058
固定負債		
長期借入金	13 2,486	1,600
リース債務	45	53
繰延税金負債	25	70
退職給付引当金	4,040	4,034
その他	425	266
固定負債合計	7,022	6,023
負債合計	24,531	24,082
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,052	6,052
資本剰余金	2,022	2,022
利益剰余金	3,989	7,366
自己株式	66	539
株主資本合計	11,997	14,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	126
その他の包括利益累計額合計	46	126
純資産合計	12,044	15,029
負債純資産合計	36,576	39,111

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】  
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	51,975	53,139
その他の事業売上高	103	108
売上高合計	52,079	53,247
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	1 45,429	1 45,954
その他の事業売上原価	44	39
売上原価合計	45,474	45,994
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	6,546	7,184
その他の事業総利益	59	68
売上総利益合計	6,605	7,253
<b>販売費及び一般管理費</b>	2 4,578	2 4,814
<b>営業利益</b>	2,026	2,438
<b>営業外収益</b>		
受取利息	4	2
受取配当金	20	10
特許関連収入	38	34
その他	10	20
営業外収益合計	73	68
<b>営業外費用</b>		
支払利息	112	74
支払保証料	54	59
シンジケートローン手数料	-	90
その他	56	33
営業外費用合計	223	258
<b>経常利益</b>	1,877	2,249
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	3 90	3 32
特別利益合計	90	32
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	4 9	4 3
減損損失	5 32	-
その他	0	-
特別損失合計	42	3
<b>税金等調整前当期純利益</b>	1,925	2,279
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	141	299
<b>法人税等調整額</b>	39	1,573
<b>法人税等合計</b>	102	1,273
<b>少数株主損益調整前当期純利益</b>	1,823	3,552
<b>当期純利益</b>	1,823	3,552

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,823	3,552
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15	79
その他の包括利益合計	<u>1</u> 15	<u>1</u> 79
包括利益	<u>1,838</u>	<u>3,632</u>
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,838	3,632
少数株主に係る包括利益	-	-

## 【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
当期首残高	6,052	6,052
当期末残高	6,052	6,052
<b>資本剰余金</b>		
当期首残高	2,022	2,022
<b>当期変動額</b>		
自己株式の処分	-	0
<b>当期変動額合計</b>	-	0
当期末残高	2,022	2,022
<b>利益剰余金</b>		
当期首残高	2,362	3,989
<b>当期変動額</b>		
当期純利益	1,823	3,552
剰余金の配当	196	175
<b>当期変動額合計</b>	1,626	3,377
当期末残高	3,989	7,366
<b>自己株式</b>		
当期首残高	65	66
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	1	472
自己株式の処分	-	0
<b>当期変動額合計</b>	1	472
当期末残高	66	539
<b>株主資本合計</b>		
当期首残高	10,372	11,997
<b>当期変動額</b>		
当期純利益	1,823	3,552
剰余金の配当	196	175
自己株式の取得	1	472
自己株式の処分	-	0
<b>当期変動額合計</b>	1,625	2,904
当期末残高	11,997	14,902
<b>その他の包括利益累計額</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
当期首残高	31	46
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	79
<b>当期変動額合計</b>	15	79
当期末残高	46	126

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
純資産合計		
当期首残高	10,403	12,044
当期変動額		
当期純利益	1,823	3,552
剰余金の配当	196	175
自己株式の取得	1	472
自己株式の処分	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	79
当期変動額合計	1,640	2,984
当期末残高	12,044	15,029

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,925	2,279
減価償却費	229	175
減損損失	32	-
貸倒引当金の増減額（ は減少）	57	6
完成工事補償引当金の増減額（ は減少）	23	6
工事損失引当金の増減額（ は減少）	9	24
賞与引当金の増減額（ は減少）	83	47
退職給付引当金の増減額（ は減少）	86	6
有形固定資産売却損益（ は益）	90	32
有形固定資産除却損	9	3
受取利息及び受取配当金	24	13
支払利息	112	74
売上債権の増減額（ は増加）	1,752	2,489
未成工事支出金の増減額（ は増加）	440	344
その他の資産の増減額（ は増加）	115	51
仕入債務の増減額（ は減少）	319	79
未成工事受入金の増減額（ は減少）	528	22
未払消費税等の増減額（ は減少）	201	325
その他の負債の増減額（ は減少）	118	41
小計	951	5,154
利息及び配当金の受取額	24	13
利息の支払額	117	97
法人税等の支払額	135	137
営業活動によるキャッシュ・フロー	723	4,933
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	2	2
有形固定資産の取得による支出	134	207
有形固定資産の売却による収入	91	32
無形固定資産の取得による支出	8	29
貸付金の回収による収入	1	1
保険積立金の積立による支出	151	-
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	202	206
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	2,000
長期借入金の返済による支出	714	3,086
リース債務の返済による支出	25	25
自己株式の処分による収入	-	0
自己株式の取得による支出	1	472
配当金の支払額	194	172
財務活動によるキャッシュ・フロー	936	1,756
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	414	2,969
現金及び現金同等物の期首残高	9,578	9,163
現金及び現金同等物の期末残高	9,163	12,132

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社数(1社)

緑興産株式会社

非連結子会社

島根アースエンジニアリング株式会社

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法非適用の非連結子会社

島根アースエンジニアリング株式会社

持分法を適用しない理由

非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は3月31日であり、連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

商品

先入先出法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

販売用不動産

個別法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

未成工事支出金

個別法による原価法

材料貯蔵品

先入先出法による原価法(連結貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く).....定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)及び、機械装置につきましては定額法によっております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

無形固定資産（リース資産を除く）……定額法

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保等の費用に備えるため、当連結会計年度の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により発生の際連結会計年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の際連結会計年度から費用処理又は費用の減額処理をしております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

その他の工事

工事完成基準

当連結会計年度において工事進行基準を適用した完成工事高は、29,136百万円であります。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクシカ負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなります。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

( 会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更 )

( 減価償却方法の変更 )

法人税法の改正による変更

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当連結会計年度の損益への影響は軽微であります。

機械装置の減価償却方法の変更

従来、当社及び連結子会社が保有する機械装置の減価償却方法は定率法を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しております。

この変更は、当連結会計年度における機械設備投資を契機に、当社グループの機械装置の使用実態を検討した結果、定額法による減価償却の方法を採用する方が、事業の実態をより適切に反映することができると判断したことによるものであります。

この変更により、従来の方によった場合に比べ、当連結会計年度の減価償却費は41百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ39百万円増加しております。

( 未適用の会計基準等 )

- ・ 「退職給付に関する会計基準」( 企業会計基準第26号 平成24年5月17日 )
- ・ 「退職給付に関する会計基準の適用指針」( 企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日 )

( 1 ) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

( 2 ) 適用予定日

平成26年3月期の期末より適用予定です。ただし、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

( 3 ) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(連結貸借対照表関係)

1 3、4、6

有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	8,505百万円	7,448百万円

2 8

このうち、非連結子会社に対する金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
投資有価証券(株式)	10百万円	10百万円

3 3、5、8、10、13

担保資産及び担保債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
建物・構築物	1,016百万円	-百万円
土地	5,332	-
投資有価証券	369	-
計	6,718	-
短期借入金(長期借入金からの振替額)	600百万円	-
長期借入金	2,486	-
計	3,086	-

4 (1) 当社の販売物件購入に対する借入金について保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
13件	49百万円	12件 40百万円

(2) 住宅資金融資規定により、従業員が銀行から借入れた住宅資金に対し、その債務の保証を行っておりません。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	88百万円	59百万円

5 7

前連結会計年度（平成24年3月31日）

その他有形固定資産については、取得価額から国庫補助金による圧縮記帳額2百万円が控除されております。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

その他有形固定資産については、取得価額から国庫補助金による圧縮記帳額2百万円が控除されております。

6 2、11

前連結会計年度（平成24年3月31日）

損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は37百万円であります。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は1百万円であります。

7 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。

連結会計年度末における貸出コミットメント契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
貸出コミットメントの総額	3,000百万円	2,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	3,000	2,000

8 1、9、12

連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	206百万円	238百万円
支払手形	327	318
設備関係支払手形（その他）	2	13

(連結損益計算書関係)

1 1

完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	20百万円	4百万円

2 2

このうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
従業員給料手当	2,272百万円	2,326百万円
賞与引当金繰入額	140	159
退職給付費用	255	259
貸倒引当金繰入額	48	13
減価償却費	75	70

3 2

一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
	338百万円	156百万円

4 3

固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物・土地	90百万円	-百万円
機械・運搬具・工具器具備品	0	32
計	90	32

5 4

固定資産除売却損の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物・構築物	9百万円	0百万円
機械・運搬具・工具器具備品	-	3
計	9	3

6 5 減損損失

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当社グループは、以下の資産について減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	金額
遊休資産	機械装置	埼玉県久喜市他	6百万円
遊休資産	電話加入権	東京都中央区他	26
計			32

（グルーピングの方法）

事業用資産は、原則として最小利益単位である部・支店毎にグルーピングし、共用資産については、事業全体をグルーピングの単位としております。また、売却予定資産及び遊休資産については、個々の物件単位でグルーピングしております。

（経緯）

遊休資産となっている機械装置及び休止預りとなっている電話加入権について、今後の利用見込みを検討した結果、その可能性が乏しいことから、減損損失を認識しました。

（回収可能価額の算定方法）

機械装置及び電話加入権については、転用もしくは売却が困難であることから、備忘価格まで減額しております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

（連結包括利益計算書関係）

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 （自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	19百万円	123百万円
組替調整額	-	-
税効果調整前	19	123
税効果額	4	44
その他有価証券評価差額金	15	79
その他の包括利益合計	15	79

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	135,677,164	40,000,000	-	175,677,164
乙種優先株式	10,000,000	-	10,000,000	-
合計	145,677,164	40,000,000	10,000,000	175,677,164
自己株式				
普通株式	265,803	9,862	-	275,665
合計	265,803	9,862	-	275,665

- (注) 1 普通株式の増加は、乙種優先株式の取得に伴う発行によるものであります。  
2 乙種優先株式の減少は、取得請求により取得した優先株式の消却によるものであります。  
3 普通株式の自己株式の増加は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の総額	配当金の原資	1株当たりの 配当額	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	乙種優先株式	61百万円	利益剰余金	6.10円	平成23年3月31日	平成23年6月30日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	135百万円	利益剰余金	1.00円	平成23年3月31日	平成23年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成24年6月28日開催の定時株主総会において、以下のとおり決議されております。

決議	株式の種類	配当の総額	配当金の原資	1株当たりの 配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	175百万円	利益剰余金	1.00円	平成24年3月31日	平成24年6月29日

当連結会計年度（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	175,677,164	-	131,757,873	43,919,291
合計	175,677,164	-	131,757,873	43,919,291
自己株式				
普通株式	275,665	1,256,889	207,374	1,325,180
合計	275,665	1,256,889	207,374	1,325,180

- (注) 1 普通株式の減少は、4株を1株とする株式併合によるものであります。  
2 自己株式の数の増加は、平成24年7月2日開催の取締役会の決議による自己株式の取得および単元未満株式の買取りによる増加分であります。  
3 自己株式の数の減少は、単元未満株式の買増請求による売渡しによる減少分であります。  
4 自己株式の増加株式数及び減少株式数については、4株を1株とする株式併合の影響を考慮しております。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の総額	配当金の原資	1株当たり の配当額	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	175百万円	利益剰余金	1.00円	平成24年3月31日	平成24年6月29日

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの  
平成25年6月27日開催の定時株主総会において、以下のとおり決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当の総額	配当金の原資	1株当たり の配当額	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	255百万円	利益剰余金	6.00円	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
現金預金勘定	9,163百万円	12,132百万円
現金及び現金同等物	9,163	12,132

(リース取引関係)

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、パソコン(備品)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

2. リース資産の減価償却の方法

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

	前連結会計年度(平成24年3月31日)			
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相 当額(百万円)	減損損失累計額相 当額(百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機械・運搬具・工具器具備品	56	54	-	2
その他	9	9	-	-
合計	66	63	-	2

	当連結会計年度(平成25年3月31日)			
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相 当額(百万円)	減損損失累計額相 当額(百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機械・運搬具・工具器具備品	30	27	-	2
合計	30	27	-	2

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	2	2
1年超	-	-
合計	2	2

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料、減価償却費相当額及びリース資産減損勘定の取崩額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
支払リース料	12	6
減価償却費相当額	12	6

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち、解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
1年内	9	3
1年超	16	7
合計	25	10

## (金融商品関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に関する取組方針

当グループは、事業目的に沿った必要な運転資金を、銀行借入により調達しております。一時的な余資は、短期的な預金等で運用しております。また、デリバティブは、実需に応じた一定の範囲内で行い、投機的な取引は行わない方針であります。なお、当連結会計年度はデリバティブ取引を利用しておりません。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、取引相手先の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。営業債務である支払手形・工事未払金等は、支払期日が集中しており、流動性リスクに晒されております。運転資金としての借入金は、市場価格の変動リスク(金利リスク)に晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

## 信用リスク(取引相手先の契約不履行に係るリスク)の管理

当社グループは、与信管理規程、債権管理要領に従い、受取手形・完成工事未収入金等について、関連部署で定期的に主要な取引相手先をモニタリングし、取引相手先毎に債権残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

## 市場リスク(市場の相場変動リスク)の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握するとともに、市況や取引先との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

借入金(金利リスク)については、借入金残高を適時適切に管理するとともに、早期削減を加速させ金利リスクを抑制しております。なお、当連結会計年度はデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用しておりません。

## 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持や取引銀行との貸出コミットメント契約の締結等により、流動性リスクを管理しております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次の通りであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。(注)2.参照)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1)現金預金	9,163	9,163	-
(2)受取手形・完成工事未収入金等	17,174	17,174	-
(3)投資有価証券 その他有価証券	379	379	-
資産計	26,716	26,716	-
(1)支払手形・工事未払金等	13,152	13,152	-
(2)短期借入金	600	600	-
(3)長期借入金	2,486	2,486	-
負債計	16,238	16,238	-
デリバティブ取引	-	-	-

(注) 1 . 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項  
資 産

(1)現金預金、(2)受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」の注記を参照ください。

負 債

(1)支払手形・工事未払金等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2)短期借入金、(3)長期借入金

これらは変動金利によっており、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状況は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は行っておりません。

(注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
関係会社株式 (非上場株式)	10
その他有価証券 (非上場株式)	50

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 . 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金預金	9,163	-	-	-
受取手形・完成工事未収入金等	17,174	-	-	-
投資有価証券 その他有価証券のうち 満期があるもの	-	-	-	-
合計	26,337	-	-	-

(注) 4 . 借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
借入金	600	2,486	-	-	-
リース債務	22	15	14	8	6
合計	622	2,501	14	8	6

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に関する取組方針

当グループは、事業目的に沿った必要な運転資金を、銀行借入により調達しております。一時的な余資は、短期的な預金等で運用しております。また、デリバティブは、実需に応じた一定の範囲内で行い、投機的な取引は行わない方針であります。なお、当連結会計年度はデリバティブ取引を利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形・完成工事未収入金等は、取引相手先の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形・工事未払金等は、支払期日が集中しており、流動性リスクに晒されております。運転資金としての借入金は、市場価格の変動リスク（金利リスク）に晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引相手先の契約不履行に係るリスク）の管理

当社グループは、与信管理規程、債権管理要領に従い、受取手形・完成工事未収入金等について、関連部署で定期的に主要な取引相手先をモニタリングし、取引相手先毎に債権残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（市場の相場変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握するとともに、市況や取引先との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

借入金（金利リスク）については、借入金残高を適時適切に管理することにより、金利リスクを抑制しております。なお、当連結会計年度はデリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用しておりません。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持や取引銀行との貸出コミットメント契約の締結等により、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（(注) 2. 参照）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時 価 (百万円)	差 額 (百万円)
(1)現金預金	12,132	12,132	-
(2)受取手形・完成工事未収入金等	14,684	14,684	-
(3)投資有価証券 その他有価証券	505	505	-
資産計	27,322	27,322	-
(1)支払手形・工事未払金等	13,232	13,232	-
(2)短期借入金	400	400	-
(3)長期借入金	1,600	1,600	-
負債計	15,232	15,232	-
デリバティブ取引	-	-	-

(注) 1 . 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項  
資 産

(1)現金預金、(2)受取手形・完成工事未収入金等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については「有価証券関係」の注記を参照ください。

負 債

(1)支払手形・工事未払金等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2)短期借入金、(3)長期借入金

これらは変動金利によっており、短期間で市場金利を反映し、また、当社の信用状況は実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引は行っておりません。

(注) 2 . 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
関係会社株式 (非上場株式)	10
その他有価証券 (非上場株式)	50

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、

「(3)投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 . 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金預金	12,132	-	-	-
受取手形・完成工事未収入金等	14,684	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの	-	-	-	-
合計	26,816	-	-	-

(注) 4 . 短期借入金及び長期借入金の返済予定額については、連結附属明細表「借入金等明細表」に記載しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成24年3月31日)

1 満期保有目的の債券(平成24年3月31日)

該当事項はありません。

2 その他有価証券 (平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	293	213	80
債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
その他	-	-	-
小計	293	213	80
(2) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	85	93	7
債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
その他	-	-	-
小計	85	93	7
合計	379	306	72

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる株式

区 分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
関係会社株式(非上場株式)	10
その他有価証券(非上場株式)	50

3 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度（平成25年3月31日）

- 1 満期保有目的の債券（平成25年3月31日）  
 該当事項はありません。

- 2 その他有価証券（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
(1) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	505	308	196
債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
その他	-	-	-
小計	505	308	196
(2) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
その他	-	-	-
小計	-	-	-
合計	505	308	196

(注)時価を把握することが極めて困難と認められる株式

区 分	連結貸借対照表計上額（百万円）
関係会社株式（非上場株式）	10
その他有価証券（非上場株式）	50

- 3 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）  
 該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

- 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。
- 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

- 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引  
デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。
- 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引  
デリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職金制度の50%相当を退職一時金で、残額については適格退職年金制度を採用してきましたが、平成21年4月に適格退職年金制度を廃止し、確定拠出年金制度へ移行しました。それに加え、総合設立の厚生年金基金(全国地質調査業厚生年金基金)に加入しております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

なお、掛金の要拠出額を費用として処理している総合設立の厚生年金基金(全国地質調査業厚生年金基金)に関する事項は次のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項(平成23年3月31日現在)

年金資産の額	58,553	百万円
年金財政計算上の給付債務の額	70,572	
差引額	12,020	

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(平成23年3月31日現在)

12.55%

(3) 補足説明

当社グループは、総合設立の厚生年金基金(全国地質調査業厚生年金基金)に当期303百万円を支払っております。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合と一致しておりません。

2 退職給付債務に関する事項(平成24年3月31日)

確定拠出年金制度への資産移換額は2,315百万円であり、8年で移換する予定であります。なお、当連結会計年度末時点の未移換額は567百万円は、未払金(流動負債の「その他」)、長期未払金(固定負債の「その他」)に計上しております。

退職給付債務	3,955	百万円
未積立退職給付債務	3,955	
未認識過去勤務債務の未処理額	49	
未認識数理計算上の差異	35	
退職給付引当金	4,040	

(注) 連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

勤務費用	172	百万円
利息費用	65	
過去勤務債務の費用処理額	5	
数理計算上の差異の費用処理額	3	
退職給付費用	228	
確定拠出年金への掛金支払額	164	

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
割引率	1.50%
過去勤務債務	10年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により発生翌連結会計年度から費用処理しております。)
数理計算上の差異の処理年数	10年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

当連結会計年度（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職金制度の50%相当を退職一時金で、残額については適格退職年金制度を採用してきましたが、平成21年4月に適格退職年金制度を廃止し、確定拠出年金制度へ移行しました。それに加え、総合設立の厚生年金基金（全国地質調査業厚生年金基金）に加入しております。また、従業員の退職等の際に割増退職金を支払う場合があります。

なお、掛金の要拠出額を費用として処理している総合設立の厚生年金基金（全国地質調査業厚生年金基金）に関する事項は次のとおりであります。

（1）制度全体の積立状況に関する事項（平成24年3月31日現在）

年金資産の額	57,626	百万円
年金財政計算上の給付債務の額	70,056	
差引額	12,430	

（2）制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合（平成24年3月31日現在）

12.70 %

（3）補足説明

当社グループは、総合設立の厚生年金基金（全国地質調査業厚生年金基金）に当期304百万円を支払っております。

なお、上記（2）の割合は当社グループの実際の負担割合と一致しておりません。

2 退職給付債務に関する事項（平成25年3月31日）

確定拠出年金制度への資産移換額は2,315百万円であり、8年で移換する予定であります。なお、当連結会計年度末時点の未移換額は399百万円は、未払金（流動負債の「その他」）、長期未払金（固定負債の「その他」）に計上しております。

退職給付債務	4,167	百万円
未積立退職給付債務	4,167	
未認識過去勤務債務の未処理額	43	
未認識数理計算上の差異	177	
退職給付引当金	4,034	

（注）連結子会社は、退職給付債務の算定に当たり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項（自平成24年4月1日至平成25年3月31日）

勤務費用	177	百万円
利息費用	59	
過去勤務債務の費用処理額	5	
数理計算上の差異の費用処理額	16	
退職給付費用	214	
確定拠出年金への掛金支払額	163	

（注）簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
割引率	1.25%
過去勤務債務	10年（発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により発生の際連結会計年度から費用処理しております。）
数理計算上の差異の処理年数	10年（各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の際連結会計年度から費用処理することとしております。）

(ストック・オプション等関係)  
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
繰延税金資産		
繰越欠損金	1,061百万円	482百万円
販売用不動産	5	5
未払事業税	17	35
賞与引当金	158	180
貸倒引当金	66	63
完成工事補償引当金	12	9
工事損失引当金	21	12
固定資産(減損損失)	17	16
確定拠出年金未払金	212	148
退職給付引当金	1,451	1,445
未実現利益	55	50
その他	40	100
繰延税金資産小計	3,121	2,550
評価性引当額	2,275	129
繰延税金資産合計	845	2,420
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	25	70
繰延税金負債合計	25	70
繰延税金資産の純額	819	2,350

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
	(%)	(%)
法定実効税率 (調整)	40.6	38.0
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1	0.9
住民税均等割	5.7	4.5
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3	0.1
評価性引当額	20.0	2.2
当期認識未認識税効果	32.3	100.6
連結納税に伴う影響額	0.2	0.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	9.7	-
その他	1.0	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	5.3	55.9

(資産除去債務関係)

前連結会計年度末(平成24年3月31日)

当社は、賃貸借契約に基づき使用する事務所等については、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

当連結会計年度末(平成25年3月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

当社グループの報告セグメントは、当社及び連結子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するため、定期的に検討を行う対象となっております。

当社グループは、建設事業のほかに、商品資材販売等事業、及び保険代理業の事業活動を展開しておりますが、それらは開示情報としての重要性に乏しく、建設事業の単一セグメントとなるため記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

当社グループの報告セグメントは、当社及び連結子会社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するため、定期的に検討を行う対象となっております。

当社グループは、建設事業のほかに、商品資材販売等事業、及び保険代理業の事業活動を展開しておりますが、それらは開示情報としての重要性に乏しく、建設事業の単一セグメントとなるため記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載しておりません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載しておりません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の額が、連結貸借対照表の有形固定資産の額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載しておりません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当社グループは、建設事業のほかに、商品資材販売等事業、及び保険代理業の事業活動を展開しておりますが、それらは開示情報としての重要性に乏しく、建設事業の単一セグメントとなるため記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	274.67円	352.84円
1株当たり当期純利益	43.45円	82.78円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	なお、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額については、潜在株 式が存在しないため記載しており ません。	なお、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額については、潜在株 式が存在しないため記載しており ません。

(注) 1 当社は、平成24年10月1日付で普通株式4株につき1株の割合で株式併合を行っており、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しています。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	1,823	3,552
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,823	3,552
普通株式の期中平均株式数 (千株)	41,965	42,918

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	600	400	1.85	-
1年以内に返済予定のリース債務	22	22	-	-
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	2,486	1,600	1.85	平成26年～平成30年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	45	53	-	平成26年～平成30年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	3,153	2,075	-	-

(注) 1 「平均利率」については、期末借入残高に対する加重平均利率を記載しております。

- 2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
- 3 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
長期借入金(百万円)	400	400	400	400

- 4 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
リース債務(百万円)	21	15	13	2

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	8,429	19,608	35,649	53,247
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額( )(百万円)	404	246	949	2,279
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額( )(百万円)	437	308	823	3,552
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	2.50	7.13	19.14	82.78

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	2.50	3.04	26.53	64.08

2【財務諸表等】  
(1)【財務諸表】  
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	9,026	11,969
受取手形	<sup>1</sup> 4,539	<sup>1</sup> 4,048
完成工事未収入金	<sup>2</sup> 12,627	<sup>2</sup> 10,626
販売用不動産	0	0
未成工事支出金	<sup>3</sup> 1,246	<sup>3</sup> 1,581
材料貯蔵品	189	142
未収入金	<sup>4</sup> 141	<sup>4</sup> 182
繰延税金資産	837	831
その他	<sup>5</sup> 74	<sup>5</sup> 63
貸倒引当金	46	16
流動資産合計	28,636	29,430
固定資産		
有形固定資産		
建物	<sup>6</sup> 3,871	3,876
減価償却累計額	2,686	2,749
建物(純額)	1,185	1,127
構築物	<sup>7</sup> 430	430
減価償却累計額	411	414
構築物(純額)	18	16
機械及び装置	5,537	4,497
減価償却累計額	5,378	4,241
機械及び装置(純額)	159	256
車両運搬具	-	0
減価償却累計額	-	0
車両運搬具(純額)	-	0
工具器具・備品	117	117
減価償却累計額	100	106
工具器具・備品(純額)	17	11
土地	<sup>8</sup> 5,403	5,403
リース資産	85	119
減価償却累計額	73	86
リース資産(純額)	12	33
建設仮勘定	0	0
その他(純額)	<sup>9</sup> 2	<sup>9</sup> 2
有形固定資産合計	6,799	6,852
無形固定資産		
借地権	96	96
ソフトウェア	23	14
リース資産	52	38
その他	31	55
無形固定資産合計	203	205

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	10 421	543
関係会社株式	51	51
長期貸付金	5	5
長期前払費用	2	3
差入保証金	11 293	248
破産更生債権等	138	158
繰延税金資産	-	1,556
保険積立金	151	151
その他	12	12
貸倒引当金	132	156
投資その他の資産合計	945	2,574
<b>固定資産合計</b>	<b>7,948</b>	<b>9,631</b>
<b>資産合計</b>	<b>36,584</b>	<b>39,061</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	12 7,815	12 8,035
工事未払金	13 5,346	13 5,212
短期借入金	14 600	400
未払金	312	339
未払費用	172	170
リース債務	22	22
未払法人税等	102	283
未払消費税等	200	526
未成工事受入金	2,183	2,206
預り金	178	323
完成工事補償引当金	32	25
工事損失引当金	15 57	15 32
賞与引当金	363	410
設備関係支払手形	16 32	16 13
設備関係未払金	77	40
流動負債合計	17,496	18,041
<b>固定負債</b>		
長期借入金	17 2,486	1,600
リース債務	45	53
長期未払金	425	266
繰延税金負債	25	68
退職給付引当金	4,036	4,029
その他	0	0
固定負債合計	7,018	6,017
<b>負債合計</b>	<b>24,514</b>	<b>24,059</b>

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,052	6,052
資本剰余金		
資本準備金	1,753	1,753
その他資本剰余金	269	269
資本剰余金合計	2,022	2,022
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	4,015	7,343
利益剰余金合計	4,015	7,343
自己株式	66	539
株主資本合計	12,023	14,878
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	46	123
評価・換算差額等合計	46	123
純資産合計	12,069	15,002
負債純資産合計	36,584	39,061

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
売上高		
完成工事高	51,973	53,150
売上高合計	51,973	53,150
売上原価		
完成工事原価	<sup>1</sup> 45,509	<sup>1</sup> 46,061
売上原価合計	45,509	46,061
売上総利益		
完成工事総利益	6,464	7,089
売上総利益合計	6,464	7,089
販売費及び一般管理費		
役員報酬	131	136
給料手当及び賞与	2,219	2,276
賞与引当金繰入額	137	155
退職給付費用	253	257
法定福利費	355	375
福利厚生費	128	119
修繕維持費	13	15
事務用品費	133	136
通信交通費	333	339
動力用水光熱費	36	39
調査研究費	94	112
広告宣伝費	5	5
貸倒引当金繰入額	48	13
交際費	33	47
寄付金	2	5
地代家賃	210	209
減価償却費	78	74
租税公課	79	91
保険料	11	16
雑費	264	290
販売費及び一般管理費合計	<sup>2</sup> 4,473	<sup>2</sup> 4,717
営業利益	1,990	2,372
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	<sup>3</sup> 120	<sup>3</sup> 26
特許関連収入	39	35
その他	10	20
営業外収益合計	174	84
営業外費用		
支払利息	112	74
支払保証料	54	59
シンジケートローン手数料	-	90
その他	56	33
営業外費用合計	222	257
経常利益	1,942	2,199

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月 31日)
特別利益		
固定資産売却益	4 90	4 32
特別利益合計	90	32
特別損失		
固定資産除売却損	5 6	5 3
減損損失	6 32	-
特別損失合計	39	3
税引前当期純利益	1,993	2,228
法人税、住民税及び事業税	104	275
法人税等調整額	34	1,550
法人税等合計	69	1,274
当期純利益	1,923	3,503

【完成工事原価明細書】

区分	注記 番号	第65期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)		第66期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
材料費		13,286	29.2	12,805	27.8
労務費		155	0.3	161	0.3
外注費		21,772	47.9	22,610	49.1
経費		10,294	22.6	10,484	22.8
(うち人件費)		(5,140)	(11.3)	(4,827)	(10.5)
計		45,509	100	46,061	100

(注) 原価計算の方法は、個別原価計算であります。

## 【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	6,052	6,052
当期末残高	6,052	6,052
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,753	1,753
当期末残高	1,753	1,753
その他資本剰余金		
当期首残高	269	269
当期変動額		
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	-	0
当期末残高	269	269
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	2,288	4,015
当期変動額		
当期純利益	1,923	3,503
剰余金の配当	196	175
当期変動額合計	1,726	3,327
当期末残高	4,015	7,343
自己株式		
当期首残高	65	66
当期変動額		
自己株式の取得	1	472
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	1	472
当期末残高	66	539
株主資本合計		
当期首残高	10,298	12,023
当期変動額		
自己株式の取得	1	472
剰余金の配当	196	175
当期純利益	1,923	3,503
自己株式の処分	-	0
当期変動額合計	1,725	2,855
当期末残高	12,023	14,878

	前事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	30	46
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	77
当期変動額合計	15	77
当期末残高	46	123
純資産合計		
当期首残高	10,328	12,069
当期変動額		
自己株式の取得	1	472
剰余金の配当	196	175
当期純利益	1,923	3,503
自己株式の処分	-	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15	77
当期変動額合計	1,740	2,932
当期末残高	12,069	15,002

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

事業年度末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

販売用不動産

個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

未成工事支出金

個別法に基づく原価法

材料貯蔵品

先入先出法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)及び機械装置については定額法)によっております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4 引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、当事業年度の完成工事に対する将来の見積補償額に基づいて計上しております。

工事損失引当金

受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることができる工事について、損失見込額を計上しております。

#### 賞与引当金

従業員賞与の支払に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、計上しております。過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務時間以内の一定の年数(10年)による定額法により発生翌事業年度から費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

#### 5 重要な収益及び費用計上基準

##### 完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

その他の工事

工事完成基準

当事業年度において工事進行基準を適用した完成工事高は、29,136百万円であります。

#### 6 消費税等の会計処理

消費税等に相当する額の会計処理は、税抜方式によっております。

#### 7 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

#### (減価償却方法の変更)

##### 法人税法の改正による変更

当社は、法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当事業年度の損益への影響は軽微であります。

##### 機械装置の減価償却方法の変更

従来、当社及び連結子会社が保有する機械装置の減価償却方法は定率法を採用していましたが、当事業年度より定額法に変更しております。

この変更は、当事業年度における機械設備投資を契機に、当社グループの機械装置の使用実態を検討した結果、定額法による減価償却の方法を採用する方が、事業の実態をより適切に反映できると判断したことによるものであります。

この変更により、従来の方法によった場合に比べ、当事業年度の減価償却費は41百万円減少し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ39百万円増加しております。

(貸借対照表関係)

1 6、7、8、10、14、17

担保資産及び担保債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
建物	1,073百万円	-
構築物	15	-
土地	5,395	-
投資有価証券	369	-
計	6,854	-
短期借入金(長期借入金からの振替額)	600百万円	-
長期借入金	2,486	-
計	3,086	-

2 (1) 当社の販売物件購入に対する借入金について保証を行っております。

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
13件	49百万円	12件 40百万円

(2) 住宅資金融資規程により、従業員が銀行から借入れた住宅資金に対しその債務の保証を行っております。

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
	88百万円	59百万円

3 9

第65期(平成24年3月31日)

その他有形固定資産については、取得価額から国庫補助金による圧縮記帳額2百万円が控除されております。

第66期(平成25年3月31日)

その他有形固定資産については、取得価額から国庫補助金による圧縮記帳額2百万円が控除されております。

4 3、15

第65期（平成24年3月31日）

損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は37百万円であります。

第66期（平成25年3月31日）

損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。

損失が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は1百万円であります。

5 2、4、5、11、12、13

このうち関係会社に対するものは次のとおりであります。

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
完成工事未収入金	20百万円	19百万円
未収入金	9	20
その他（流動資産）	33	38
差入保証金	55	-
支払手形	83	29
工事未払金	103	117

6 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と貸出コミットメント契約を締結しております。

事業年度末における貸出コミットメント契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
貸出コミットメントの総額	3,000百万円	2,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	3,000	2,000

7 1、12、16

事業年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の事業年度末日満期手形が事業年度末残高に含まれております。

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
受取手形	206百万円	238百万円
支払手形	327	318
設備関係支払手形	2	13

(損益計算書関係)

1 1

完成工事原価に含まれる工事損失引当金繰入額

	第65期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	第66期 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
	20百万円	4百万円

2 2

一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	第65期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	第66期 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
	338百万円	156百万円

3 3

関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	第65期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	第66期 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
受取配当金	110百万円	16百万円

4 4

固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	第65期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	第66期 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
建物・土地	89百万円	- 百万円
機械装置	0	32
計	90	32

5 5

固定資産除売却損の内訳は、次のとおりであります。

	第65期 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	第66期 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)
建物	4百万円	0百万円
構築物	1	-
機械装置	0	3
車両運搬具	-	0
計	6	3

6 6 減損損失

第65期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

当社は、以下の資産について減損損失を計上しました。

（単位：百万円）

用途	種類	場所	金額
遊休資産	機械装置	埼玉県久喜市他	6百万円
遊休資産	電話加入権	東京都中央区他	26
計			32

（グルーピングの方法）

事業用資産は、原則として最小利益単位である部・支店毎にグルーピングし、共用資産については、事業全体をグルーピングの単位としております。また、売却予定資産及び遊休資産については、個々の物件単位でグルーピングしております。

（経緯）

遊休資産となっている機械装置及び休止預りとなっている電話加入権について、今後の利用見込みを検討した結果、その可能性が乏しいことから、減損損失を認識しました。

（回収可能価額の算定方法）

機械装置及び電話加入権については、転用もしくは売却が困難であることから、備忘価格まで減額しております。

第66期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

第65期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	265,803	9,862	-	275,665
乙種優先株式	-	10,000,000	10,000,000	-
合計	265,803	10,009,862	10,000,000	275,665

(変動事由の概要)

- 1 普通株式の自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取りによる増加分であります。
- 2 乙種優先株式の株式数の増加は、普通株式への転換のために取得したものであり、減少は消却によるものであります。

第66期(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式	275,665	1,256,889	207,374	1,325,180
合計	275,665	1,256,889	207,374	1,325,180

(変動事由の概要)

- 1 普通株式の自己株式の数の増加は、平成24年7月2日開催の取締役会の決議による自己株式の取得及び単元未満株式の買取りによる増加分であります。
- 2 普通株式の自己株式の数の減少は、単元未満株式の買増請求による売渡しによる減少分であります。
- 3 増加株式数及び減少株式数については、4株を1株とする株式併合の影響を考慮しております。

(リース取引関係)

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1. リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主としてパソコン(備品)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

2. リース資産の減価償却の方法

「重要な会計方針 3 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、及び期末残高相当額

	第65期(平成24年3月31日)		
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機械装置	30	28	2
工具器具・備品	26	25	0
その他	9	9	-
合計	66	63	2

	第66期(平成25年3月31日)		
	取得価額相当額 (百万円)	減価償却累計額相当額 (百万円)	期末残高相当額 (百万円)
機械装置	28	25	2
工具器具・備品	2	2	-
合計	30	27	2

なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い  
ため、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額

(単位:百万円)

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
1年内	2	2
1年超	-	-
合計	2	2

なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占め  
る割合が低い  
ため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	第65期 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	第66期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
支払リース料	12	6
減価償却費相当額	12	6

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち、解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
1年内	9	3
1年超	16	7
合計	25	10

(有価証券関係)

第65期(平成24年3月31日)

子会社及び関連会社株式の貸借対照表計上額は、子会社株式51百万円であります。当該株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

第66期(平成25年3月31日)

子会社及び関連会社株式の貸借対照表計上額は、子会社株式51百万円であります。当該株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
(繰延税金資産)		
繰越欠損金	1,061百万円	482百万円
販売用不動産	5	5
未払事業税	17	33
賞与引当金	158	179
貸倒引当金	65	62
完成工事補償引当金	12	9
工事損失引当金	21	12
固定資産(減損損失)	17	16
確定拠出未払金	212	148
退職給付引当金	1,450	1,444
その他	88	100
繰延税金資産小計	3,110	2,494
評価性引当額	2,272	106
繰延税金資産合計	837	2,387
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	25	68
繰延税金負債合計	25	68
繰延税金資産純額	812	2,319

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった項目別の内訳

	第65期 (平成24年3月31日)	第66期 (平成25年3月31日)
	(%)	(%)
法定実効税率	40.6	38.0
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.1	0.9
住民税均等割	5.5	4.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.3	0.4
評価性引当額	19.3	2.2
当期認識未認識税効果	31.2	102.8
税務上の繰越欠損金の充当(子会社)	0.2	0.7
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	9.4	-
その他	0.1	1.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	3.5	57.2

(資産除去債務関係)

第65期(平成24年3月31日)

当社は、賃貸借契約に基づき使用する事務所等については、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積ることができないため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

第66期(平成25年3月31日)

重要性がないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	第65期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	第66期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり純資産額	275.24円	352.22円
1株当たり当期純利益	45.82円	81.62円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1 当社は、平成24年10月1日付で普通株式4株につき1株の割合で株式併合を行っております。第65期の期首に当該株式併合が行われたものと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しています。

2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第65期 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	第66期 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	1,923	3,503
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	1,923	3,503
普通株式の期中平均株式数 (千株)	41,965	42,918

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】  
 【有価証券明細表】  
 【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
(投資有価証券)		
(その他有価証券)		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	31,181	117
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	254,000	112
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	206,300	115
東京海上ホールディングス(株)	40,000	106
関西国際空港(株)	1,000	50
前田建設工業(株)	47,192	17
(株)間組	100,000	21
ブイ・エス・エル・ジャパン(株)	15	0
大成建設(株)	2,184	0
京浜急行電鉄(株)	1,392	1
計	683,264	543

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残 高(百万円)
有形固定資産							
建物	3,871	7	2	3,876	2,749	65	1,127
構築物	430	-	-	430	414	2	16
機械及び装置	5,537	160	1,200	4,497	4,241	63	256
車両運搬具	-	0	0	0	0	0	0
工具器具・備品	117	-	-	117	106	6	11
土地	5,403	-	-	5,403	-	-	5,403
リース資産	85	33	-	119	86	12	33
建設仮勘定	0	59	59	0	-	-	0
その他(純額)	2	-	-	2	-	-	2
有形固定資産計	15,450	261	1,262	14,449	7,597	149	6,852
無形固定資産							
借地権	-	-	-	96	-	-	96
ソフトウェア	-	-	-	322	308	11	14
リース資産	-	-	-	73	34	13	38
その他	-	-	-	270	215	3	55
(償却対象)	-	-	-	232	215	3	16
(償却対象外)	-	-	-	38	-	-	38
無形固定資産計	-	-	-	764	558	27	205
投資その他の資産							
長期前払費用	61	1	-	63	59	0	3

(注) 無形固定資産の金額が、資産総額の1%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	179	64	18	51	172
完成工事補償引当金	32	25	25	6	25
工事損失引当金	57	32	29	27	32
賞与引当金	363	410	363	-	410

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、債権の回収による戻入額5百万円、洗替による戻入額46百万円であります。

2 完成工事補償引当金の「当期減少額(その他)」は、補修実績発生額との差額を戻入処理したものであります。

3 工事損失引当金の「当期減少額(その他)」は、対象工事の収益改善による戻入額であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

(イ)現金預金

区分	金額(百万円)
現金	59
預金	
当座預金	10,739
普通預金	1,170
計	11,909
合計	11,969

(ロ)受取手形

(a)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
(株)熊谷組	282
(株)間組	240
大林道路(株)	181
ケミカルグラウト(株)	156
(株)尾花組	83
その他	3,103
計	4,048

(b)決済月別内訳

決済月	金額(百万円)
平成25年4月	1,278
" 5月	953
" 6月	779
" 7月	1,035
" 8月	1
計	4,048

(注)平成25年4月決済月分には、当期末日(銀行休業日)満期の受取手形238百万円が含まれております。

(八) 完成工事未収入金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
国土交通省	1,481
(株)熊谷組	402
東京都	331
大成建設(株)	326
中日本高速道路(株)	215
その他	7,869
計	10,626

(b) 滞留状況

発生時	金額(百万円)
平成25年3月期 計上額	10,609
平成24年3月期以前 "	17
計	10,626

(二) 販売用不動産

土地	0百万円
計	0

(注) 販売用不動産の土地の内訳は下記のとおりであります。

地域区分	販売用不動産	
	面積(千㎡)	金額(百万円)
関東・甲信越	1.1	0
四国・九州	6.7	0
計	7.8	0

(ホ) 未成工事支出金

期首残高(百万円)	当期支出高(百万円)	完成工事原価への振替額(百万円)	期末残高(百万円)
1,246	46,396	46,061	1,581

期末残高の内訳は次のとおりであります。

材料費	533百万円
労務費	5
外注費	626
経費	415
計	1,581

(ヘ) 材料貯蔵品

区分	金額(百万円)
材料資材消耗品他	111
機械部品	26
その他	4
計	142

負債の部

(イ) 支払手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
林六(株)	378
(株)エスイー	252
三和産業(株)	149
(株)ワキタ	135
原工業(株)	118
その他	7,000
計	8,035

(b) 決済月別内訳

決済月	金額(百万円)
平成25年4月	2,375
"  5月	2,000
"  6月	1,337
"  7月	1,924
"  8月	404
計	8,035

(注) 平成25年4月決済月分には、当期末日(銀行休業日)満期の支払手形318百万円が含まれております。

(ロ) 工事未払金

相手先	金額(百万円)
三和産業(株)	134
ライト工業(株)	101
(株)大熊工業	92
緑興産(株)	79
(株)エスイー	76
その他	4,726
計	5,212

(ハ) 短期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)三井住友銀行	158
三井住友信託銀行(株)	123
(株)三菱東京UFJ銀行	83
(株)みずほ銀行	35
計	400

(二) 未成工事受入金

期首残高(百万円)	当期受入額(百万円)	完成工事高への振替額 (百万円)	期末残高(百万円)
2,183	53,173	53,150	2,206

(ホ) 長期借入金

借入先	金額(百万円)
(株)三井住友銀行	632
三井住友信託銀行(株)	492
(株)三菱東京UFJ銀行	332
(株)みずほ銀行	142
計	1,600

(ヘ) 退職給付引当金

区分	金額(百万円)
退職給付債務	4,163
未認識過去勤務債務	43
未認識数理計算上の差異	177
計	4,029

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることのできない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 電子公告(URL <a href="http://www.nittoc.co.jp/">http://www.nittoc.co.jp/</a> )
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに株主が有する単元未満株式の数と併せて単元株式となる数の株式を売り渡すことを請求する権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第65期）（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日） 平成24年6月28日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
平成24年6月28日関東財務局に提出
- (3) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書  
平成25年6月12日関東財務局長に提出  
事業年度（第65期）（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書及び確認書
- (4) 四半期報告書及びその確認書  
（第66期第1四半期）（自平成24年4月1日 至平成24年6月30日） 平成24年8月10日関東財務局長に提出  
（第66期第2四半期）（自平成24年7月1日 至平成24年9月30日） 平成24年11月9日関東財務局長に提出  
（第66期第3四半期）（自平成24年10月1日 至平成24年12月31日） 平成25年2月12日関東財務局長に提出
- (5) 臨時報告書  
平成24年6月25日関東財務局に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書  
平成24年6月29日関東財務局に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書
- (6) 自己株券買付状況報告書  
（自平成24年7月3日 至平成24年7月31日） 平成24年8月10日関東財務局長に提出  
（自平成24年8月1日 至平成24年8月31日） 平成24年9月7日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年6月25日

日特建設株式会社  
取締役会 御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員 公認会計士 三枝 哲 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 津倉 眞 印  
業務執行社員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日特建設株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日特建設株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日特建設株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、日特建設株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管している。
  2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていない。

## 独立監査人の監査報告書

平成25年6月25日

日特建設株式会社  
取締役会 御中

監査法人 保森会計事務所

代表社員 公認会計士 三枝 哲 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 津倉 眞 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日特建設株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第66期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日特建設株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管している。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。